

# 令和元年度 玉川大学 大学教育力研修

玉川大学では「大学教育力研修」を開催しております。これは、FDの一環として教員の教育力向上を目的としており、今年度は、玉川の教育の原点である「全人教育」をテーマとした基調講演、さらにはアクティブ・ラーニングなどをテーマとした分科会を予定しております。本研修会の参加について、ご案内をいたします。

ご希望の方は、下記の参加申し込み方法をご確認のうえ、お申し込みください。

**日時** 令和2年 **2月21日** **金**

基調講演 10:00～12:00 分科会 13:30～15:30

**対象** 大学・短期大学の教職員およびその関係者

先着  
**50名**  
参加費無料

## プログラム

**10:00 基調講演** 「全人教育について ―小原國芳と草創期の玉川学園を中心に―」

玉川大学教育学部全人教育研究センター長 教授 佐久間裕之

(会場:大学教育棟 2014 521 教室)

**12:00** 休憩・昼食

**13:30 分科会①** アクティブ・ラーニングワークショップ

「アクティブ・ラーニングを促す授業設計WS」

芝浦工業大学教育イノベーション推進センター FD・SD推進部門長 教授 榊原暢久氏

**分科会②** アクティブ・ラーニングワークショップ

「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」

独立行政法人 教職員支援機構 研修協力員 宮迫隆浩氏

**分科会③** 「改正著作権法第35条の施行にむけた大学の対応について」

山口大学知的財産センター長 教授 木村友久氏

●分科会の会場は大学教育棟2014内の教室を予定しております。詳細につきましては当日お知らせいたします。

## 参加お申し込み・お問い合わせ



参加をご希望の方は、QRコードまたは下記URLから参加申込ページへアクセスいただき、必要項目をご入力の上、送信してください。

[https://acweb01.adm.tamagawa.ac.jp/kyougaku/DaigakuKyoikuryokuKenshu.nsf/Entry\\_form?OpenForm](https://acweb01.adm.tamagawa.ac.jp/kyougaku/DaigakuKyoikuryokuKenshu.nsf/Entry_form?OpenForm)

●申込フォームより送信後、入力されたメールアドレス宛に申込完了通知メールを自動返信いたします。  
申込完了通知メールが届かない場合は、教育学部教務課までご連絡ください。

※お申込みの際にお知らせいただきました個人情報は研修会の集計およびご案内を目的とした運営のための利用以外には一切使用いたしません。  
※昼食は各自でご用意ください。

令和2年  
**2月17日(月)**  
締め切り

主催：玉川大学 お問い合わせ：玉川大学教育学部教務課

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL:042-759-8802 E-mail:daigakufd@eve.tamagawa.ac.jp

## 研修概要

### 基調講演「全人教育について ―小原國芳と草創期の玉川学園を中心に―」

現在、我が国では初等中等教育から高等教育まで、一貫して「生きる力」の育成が推し進められています。まさしく大学においても、学生たちの「生きる力」が更に発展・向上するような取り組みが求められているのです。例えば「三つのポリシー」の策定、教育課程の明確化（カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー）、能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換、ルーブリックの活用、教育環境の充実（ラーニング・コモンズ）等々の改革も、そうした取り組みの現れと言えるでしょう。ところで、20世紀末に「[生きる力]は、全人的な力」（中教審答申、1996年）と明言されました。それ以来、「全人教育」という言葉が全国の学校（幼小中高大）で教育理念や方針などに広く用いられています。しかし一体、「全人教育」とは何でしょうか。この講演では、今から約100年前、大正新教育運動の渦中において、我が国ではじめて「全人教育」を提唱した小原國芳に着目し、改めて「全人教育」とは何か、その現代的課題は何かについて考えていきます。

#### 分科会① アクティブ・ラーニング ワークショップ

##### 「アクティブ・ラーニングを促す授業設計 WS」

本研修では、学生の主体的な学びや授業外学習を促進する授業設計について学びます。はじめに、授業で学生に達成してほしい到達目標を設定し、その目標到達を測定する評価方法について考えます。続いて、具体的な授業の方法や課題について考えていきます。プログラムは、実際に取り組まれているより身近な実践事例を紹介し、講義と参加者同士のワークを行いながら進めていきます。参加者のみなさんがアイデアを持ち寄ることで、自身の授業における課題解決のヒントや、今後の新しい実践のヒントが見つかることを期待しています。

#### 分科会② アクティブ・ラーニング ワークショップ

##### 「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」

アクティブ・ラーニングは授業改善の「視点」とされています。そこで、全国から集めた具体的な事例を通して、時にはミニワークも挟みながら、現場の教員がどのような視点で子供の学びを見取っているのか、もしくは授業改善を行おうとしているのか、共有できればと考えております。日頃は小学校や中学校の教員向けに行う研修プランになります。

#### 分科会③ 「改正著作権法第35条の施行にむけた大学の対応について」

平成30年度著作権法改正で、授業の過程における利用に供することを目的とした異時公衆送信が認められ(35条)、その場合、教育機関設置者が相当な額の補償金を支払う義務が発生することになりました。当該条文は、令和3年5月25日までに施行されることが定められており、参画大学は予算の手当だけでなく、現場の実情を踏まえたFDの実施、既存教材等の見直しも必要になります。ここでは、補償金制度等の現状報告を行うとともに、ガイドライン案を基に今後の行動計画を検討します。

## 会場アクセス

#### ●新宿より(約30分)

小田急線「新百合ヶ丘」駅にて  
(各駅停車)〈準急〉に乗り換えて、  
「玉川学園前」駅下車

#### ●小田原より(約60分)

「町田」駅にて  
(各駅停車)〈準急〉に乗り換えて、  
「玉川学園前」駅下車

#### ●「玉川学園前」駅北口より、 新宿方面へ進み、徒歩約3分



【関連資料】1. アクティブ・ラーニング・ワークショップ

④ 分科会⑤⑥事例報告タイトル一覧

令和元年度 大学教育力研修

分科会⑤・⑥ 事例報告タイトル一覧

分科会	学部	学科	氏名	タイトル
⑤	文学部	英語教育学科	米田 佐紀子	小学校英語指導者養成のためのアクティブ・ラーニングの試み:「本物」との出会いを生かす
	農学部	生産農学科	山岡 好夫	農学部の授業におけるアクティブ・ラーニングとしてのプレゼンテーションの実施状況
	工学部	マネジメントサイエンス学科	根上 明	学科専門科目「プロジェクト・マネジメント」の事例報告
	教育学部	教育学科	山田 深雪	「名著講読」における対話を中心とした実践
⑥	経営学部	国際経営学科	島 義夫	日経ストックリーグ参加から得られたもの
	芸術学部	パフォーマンス・アーツ学科	馬場 真二	実技科目(声楽実技)におけるアクティブ・ラーニング導入
	リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	船戸 はるな	日本語指導法におけるアクティブ・ラーニングの試み
	観光学部	観光学科	法島 正和	新任教員の試行錯誤

【関連資料】3. アクティブ・ラーニングに関する教員アンケート調査

① 令和元年度アンケート調査用紙

令和元年7月

●●● 様

玉川大学 教学部長

大学教育再生加速プログラム推進のための調査協力をお願い  
— アクティブ・ラーニングに関する調査 —

平素は、本学の教育活動にご尽力いただき感謝申し上げます。

本学では、平成26年度より国の「\*大学教育再生加速プログラム（通称 AP）」の採択を受け、社会において求められる能力を最大限に伸ばすことをめざし、学生の能動的な活動を取り入れた教授・学習法（アクティブ・ラーニング）の実施を推進し、ワークショップ等を開催してまいりました。

本アンケート調査は、その取り組みがどのように進捗しているかを、定期的に把握させていただき、今後の改善施策策定に役立てていくために実施させていただくものです。また、アクティブ・ラーニングの全学的な実施状況につきましては、文部科学省から報告を求められておりますので、そのための統計データとしても活用させていただきます。

本アンケート調査は、記名式となっておりますが、先生方個々の評価につながるものではないでございます。下記の通り、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

\*大学教育再生加速プログラム：

国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援するプログラム。（平成26年度～令和元年度の6カ年）

記

調査対象：令和元年度春学期中の学士課程の授業。

ご回答方法：授業ごとに、裏面のアンケート調査用紙にてご回答ください。

ご回答期限：令和元年7月31日（水）までの回答にご協力願います。

提出方法：以下校舎のメールボックス付近に設置した回収ボックスにご提出ください。もしくは、学内便にて教務課までご提出ください。

\*回収ボックス（5箇所）

大学研究室棟、大学教育棟 2014、大学6号館、大学8号館、  
ELF Study Hall 2015

《ご回答にあたってのお願い》

- ①調査用紙はご担当いただいている授業ごとに別集となっております。この調査用紙には下記に示されている授業についてご回答ください。
- ②複数の先生方で担当いただいている授業は、代表の先生にお願いしております。
- ③新カリ・旧カリの両方に対応している授業は、どちらか片方の科目名を表示しています。
- ④1週間に2回以上実施している授業は、1つの曜日・時限のみ表示しています。
- ⑤集中授業や特定の授業については、調査（配付）をしていない場合があります。

※本調査に関するお問い合わせ先 玉川大学教学部教務課 042-739-8802

以上

事務 確認欄	調査票番号	
	所属区分①	
	所属区分②	

担当者名 :   
 科目名 :   
 種別 :   
 曜日 :   
 時限 :   
 受講人数 :

◆ご担当の授業で、以下のような「授業における取り組み」をどのくらい  
 行われたでしょうか？  
 各項目ではまるもの一つに○をつけてください。

		ほとんど毎回の 授業で行う	15 回中半分の 授業で行っている	授業 の中で行う とき 々々	ほとんど 行っていない
1	コメントおよび質問とそのフィードバック	4	3	2	1
2	小テスト(採点・返却、できなかったところの見直しも含む)	4	3	2	1
3	振り返りシート(ポートフォリオも含む)	4	3	2	1
4	レポートライティング・卒業論文 など	4	3	2	1
5	授業内での動画やメディアの活用	4	3	2	1
6	ペアワーク: 隣同士などで一緒に話し合い、作業する	4	3	2	1
7	ディベート: テーマに対して、あえて賛成と反対の意見を用意して、両方を戦わせ、どちらの論理展開がより優れていたかを判定する	4	3	2	1
8	プレゼンテーション: 研究結果や実験結果などを全員の前でわかりやすく発表する	4	3	2	1
9	問題解決型学習・課題解決型学習 (Problem-Based Learning): 与えられた事例について、学生が自分たちで問題を発見し、自己学習を行い、問題を解決していく	4	3	2	1
10	フィールドワーク(実地調査): テーマに即した場所(現地)を実際に訪れ、対象を直接観察し、関係者への聞き取り調査やアンケート調査、現地での資料の採取を行う(自然観察や野外活動なども含む)	4	3	2	1
11	実験・実習・授業内の演習実験など: 物理実験・工学実験・生物実験・化学実験・心理実験・社会実験などを含む	4	3	2	1
12	反転学習: 学習内容を自宅で動画等を視聴して予習し、教室では講義は行わず、課題について他の学生と協力しながら取り組む	4	3	2	1
13	ロールプレイング: ある特定の(自分と違う)立場の人(動物やモノの場合もある)になったつもりで、問題について考え、それを表現する	4	3	2	1
14	グループワーク: 数名のグループで話し合い、作業する	4	3	2	1
15	ピア・サポート: 授業内外で理解や作業が進んでいる学生が遅れている学生の支援をする	4	3	2	1
16	ディスカッション: 与えられたテーマに対して、クラス全体やグループなどで意見交換し、意見の集約や気づきを導きだし、考察を深めていく	4	3	2	1
17	プロジェクト学習 (Project-Based Learning): グループで、解決方法が知られていないテーマについて、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案などを行う	4	3	2	1
18	チーム・ティーチングの活用: 複数の教員が1つの教室で協力して授業を行うか、または協力して掛け合いで連携するなど(オムニバス型授業とは異なる)	4	3	2	1
19	ゲストスピーカーの活用: 学内外からゲストを招き、専門分野について講演してもらう	4	3	2	1
20	課題や資料等の提供 (Bb や Bb 以外のものも含む)	4	3	2	1
21	Bb 等のディスカッションボードを用いたディスカッション	4	3	2	1
	その他学生の能動的学修を促す工夫があれば、以下に記述し○をつけてください				
22		4	3	2	1
23		4	3	2	1

ご協力ありがとうございました。

【関連資料】5. 学修成果に関する卒業生調査

① 教育内容等の改善充実に関する Web 調査

1/30ページ

教育内容等の改善充実に関するWeb調査

本調査は、玉川大学(玉川学園女子短期大学部を含む)を卒業された方を対象としています。  
ご回答にあたり、次の点にご留意くださいますようお願い申し上げます。

- 1) ご回答の締め切りは令和元年7月24日(水)です。
- 2) ご回答に要する時間は、15分から20分程度かかりますが、回答内容は一時保存ができません。大変恐縮ですが、もし記入ミス等が生じましたら、一度「キャンセル」していただき、最初からご記入をお願いいたします。
- 3) もし、回答したくない問やわからない問がありましたら「無回答」または「その他・無回答」をクリックするか、「99」と記入してください。
- 4) 調査によるデータは統計処理し、個々のデータは一切公表しませんので、ありのままをご記入ください。
- 5) ご希望の方には、Amazonギフト券など、抽選にて景品を用意していますので、調査票の最後の箇所に所定の事項をご記入ください。

(問い合わせ先) 玉川大学学術研究所高等教育開発センター調査事務局  
sutsugyousei@chousa2019@eve.tamagawa.ac.jp

2/30ページ

Q1. あなたは、次の考え(見解)についてどのように考えますか。今のあなたの考えやイメージに最も近いものを、1～6の事項ごとに1つずつお選びください。

	そう思う	ややそう思う	あまりそうは思わない	そう思わない	無回答
1) 玉川大学の教員は良い教育をしてくれる	<input type="radio"/>				
2) 玉川大学の職員は良くサポートしてくれる	<input type="radio"/>				
3) 玉川大学は学修するための環境が整っている	<input type="radio"/>				
4) 全人教育という理念は良い理念である	<input type="radio"/>				
5) 教養を身につけることは生活や人生を豊かにする	<input type="radio"/>				
6) 大学時代に得た友人や知人は宝物である	<input type="radio"/>				

3/30ページ

Q2. 本学に在学して学生生活を送ったことをどのように評価していますか。当時にふりかえり、あなたの考えに最も近いものを、1～13の事項ごとに1つずつお選びください。

	そう思う	ややそう思う	あまりそうは思わない	そう思わない	無回答
1) 友人を十分に得ることができた	<input type="radio"/>				
2) 楽しく過ごすことができた	<input type="radio"/>				

3) 嫌なことや我慢することがたくさんあった	<input type="radio"/>				
4) 将来の夢に一步踏み出すことができた	<input type="radio"/>				
5) もう二度と入学したくない	<input type="radio"/>				
6) 人とのつながりや人脈を広げることができた	<input type="radio"/>				
7) 生きがいや人生の目的を知るきっかけを得ることができた	<input type="radio"/>				
8) 物事を前向きにとらえるようになった	<input type="radio"/>				
9) 自分のキャリアの方向を定めることができた	<input type="radio"/>				
10) 大学の中に自分の居場所を得ることができた	<input type="radio"/>				
11) 大学の外に自分の居場所を得ることができた	<input type="radio"/>				
12) 自分のことを好きになることができた	<input type="radio"/>				
13) 自分の持っている能力を十分に発揮することができた	<input type="radio"/>				

4/30ページ

Q3. 大学在学中の学修活動や体験活動等についてどのように評価していますか。あなたの考えに最も近いものを、1～27の事項ごとに1つずつお選びください。

	そう思う	ややそう思う	あまりそうは思わない	そう思わない	無回答
1) 専門的な知識やスキルを身につけることができた	<input type="radio"/>				
2) 視野を広げることができた	<input type="radio"/>				
3) 学ぶ楽しさを知ることができた	<input type="radio"/>				
4) 創造性や独創性を身につけることができた	<input type="radio"/>				
5) 分析力や洞察力を身につけることができた	<input type="radio"/>				
6) 自律性や主体性を向上させることができた	<input type="radio"/>				
7) 物事を数量的に把握したり説明したりする力を向上させることができた	<input type="radio"/>				
8) コミュニケーション力を向上させることができた	<input type="radio"/>				
9) プレゼンテーション力を身につけることができた	<input type="radio"/>				
10) リーダーシップを身につけることができた	<input type="radio"/>				
11) リーダーをサポートする力(フォロワーシップ)を身につけることができた	<input type="radio"/>				
12) 忍耐力を向上させることができた	<input type="radio"/>				
13) 協調性を向上させることができた	<input type="radio"/>				
14) 行動力・実践力を向上させることができた	<input type="radio"/>				
15) 相手の意見を丁寧に聞く力を向上させることができた	<input type="radio"/>				
16) 意見の違い等を理解する力を向上させることができた	<input type="radio"/>				
17) 現状を分析し課題を明らかにする力を身につけることができた	<input type="radio"/>				
18) 課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力を身につけることができた	<input type="radio"/>				
19) 社会のルールや約束を守る習慣を向上させることができた	<input type="radio"/>				
20) ストレスが発生した時にコントロールする力を身につけることができた	<input type="radio"/>				
21) 直面している状況に対して自分自身の知識やスキルを活用する力を身につけることができた	<input type="radio"/>				
22) 日本語を用いて説明したり表現したりする力を向上させることができた	<input type="radio"/>				
23) 外国語を用いて説明したり表現したりする力を向上させることができた	<input type="radio"/>				

24) 具体的な事柄と抽象的な概念の両方を用いて思考する力を身につけることができた	<input type="radio"/>				
25) 将来に向けて挑戦してみようという気持ちになった	<input type="radio"/>				
26) 調査方法や情報収集の方法を身につけることができた	<input type="radio"/>				
27) 自己肯定感や自己受容の気持ちを育てることができた	<input type="radio"/>				

5/30ページ

Q4. Q3において、1、2または3を選んだ方にお聞きます。大学在学中に身につけた次に掲げる能力は、現在の仕事や生活を送る上で役に立っていますか。あなたの考えに最も近いものを、1～27の事項ごとに1つずつお選びください。

	現在役に立っていない	社会に出てすぐに役に立った	社会に出てしばらくしてから役に立った	よくわからない	無回答
1) 専門的な知識やスキル	<input type="radio"/>				
2) 広い視野	<input type="radio"/>				
3) 学ぶ楽しさ	<input type="radio"/>				
4) 創造性や独創性	<input type="radio"/>				
5) 分析力や洞察力	<input type="radio"/>				
6) 自律性・主体性	<input type="radio"/>				
7) 物事を数量的に把握・説明する力	<input type="radio"/>				
8) コミュニケーション力	<input type="radio"/>				
9) プレゼンテーション力	<input type="radio"/>				
10) リーダーシップ	<input type="radio"/>				
11) フォロワーシップ	<input type="radio"/>				
12) 忍耐力	<input type="radio"/>				
13) 協調性	<input type="radio"/>				
14) 行動力・実践力	<input type="radio"/>				
15) 傾聴力	<input type="radio"/>				
16) 柔軟性	<input type="radio"/>				
17) 課題発見力	<input type="radio"/>				
18) 計画力	<input type="radio"/>				
19) 規範性	<input type="radio"/>				
20) ストレスコントロール力	<input type="radio"/>				
21) 自分自身の有する知識やスキルを状況に応じて活用する力	<input type="radio"/>				
22) 日本語を用いての説明力・表現力	<input type="radio"/>				
23) 外国語を用いての説明力・表現力	<input type="radio"/>				
24) 具体的な事柄と抽象的な概念の両方を用いて思考する力	<input type="radio"/>				
25) 将来に向けて挑戦していこうという意欲	<input type="radio"/>				
26) 調査方法や情報収集の方法	<input type="radio"/>				
27) 自己肯定感・自己受容	<input type="radio"/>				

Q5. 大学在学中に経験した次の活動や人間関係などについて、どのように評価していますか。1～28の事項の中であなたが経験したり関わったりしていたもののみについて、あなたの考えに最も近いものを、それぞれの事項ごとに1つずつお選びください。

※経験等をしていなければ回答する必要はありません。空欄のままご回答ください。

	とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	全く良くなかった	無回答
1) 体育祭	<input type="radio"/>				
2) 音楽祭	<input type="radio"/>				
3) ゼミ・研究室の先生	<input type="radio"/>				
4) 研究室、クラス担任の先生	<input type="radio"/>				
5) 4.に掲げた教員以外の先生	<input type="radio"/>				
6) クリスマス礼拝	<input type="radio"/>				
7) 一年次セミナー	<input type="radio"/>				
8) 語学に関するカリキュラム	<input type="radio"/>				
9) 専門科目に関するカリキュラム	<input type="radio"/>				
10) 教養科目に関するカリキュラム	<input type="radio"/>				
11) 部活動など公認のサークル活動	<input type="radio"/>				
12) 愛好会や同好会など非公認のサークル活動	<input type="radio"/>				
13) 就職情報提供・キャリア指導	<input type="radio"/>				
14) 単位取得や進級・卒業の仕組み、GPA制度	<input type="radio"/>				
15) 健康指導や病気の際のケア	<input type="radio"/>				
16) 1日の授業のスケジュール	<input type="radio"/>				
17) イベント等にかかる大学からの情報提供	<input type="radio"/>				
18) 学外での学修・フィールドワーク	<input type="radio"/>				
19) コスモス祭	<input type="radio"/>				
20) 図書館やサポート・デスクなどでの個別学修支援	<input type="radio"/>				
21) 食堂・売店	<input type="radio"/>				
22) キャンパス内の施設	<input type="radio"/>				
23) 奨学金	<input type="radio"/>				
24) 教養の向上に関する学部行事	<input type="radio"/>				
25) 実行委員会などの学内委員会活動	<input type="radio"/>				
26) 海外留学	<input type="radio"/>				
27) ボランティア活動	<input type="radio"/>				
28) アルバイト	<input type="radio"/>				

Q6. 大学卒業後、本学とどのようなつながりがありますか。これまでをふりかえり、あなたの活動に最も近いものを、1～13の事項ごとに1つずつお選びください。

当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまる	当てはまらない	無回答
<input type="radio"/>				

			ら な い		
1) 同窓会・ホームカミングデーなどの行事に参加した	<input type="radio"/>				
2) 企業内、職域などの同窓の集まりに参加した	<input type="radio"/>				
3) ゼミや研究室の集まりに参加した	<input type="radio"/>				
4) クラブ・サークルの集まりに参加した	<input type="radio"/>				
5) ホームページやSNS (Facebook・Twitterなど)の閲覧をした	<input type="radio"/>				
6) 本学に寄付をした	<input type="radio"/>				
7) 友人、知人、親戚等に玉川大学関係者(学生・教職員)がいた	<input type="radio"/>				
8) 大学が主催する公開講座に参加した	<input type="radio"/>				
9) 音楽祭、体育祭、コスモス祭などのイベントに参加した	<input type="radio"/>				
10) 同窓との付き合いを保っている	<input type="radio"/>				
11) 恩師との付き合いを保っている	<input type="radio"/>				
12) 仕事上のつながりがある	<input type="radio"/>				
13) これまでほとんどつながりはない	<input type="radio"/>				

8 / 30ページ

あなたのプロフィールに関する質問です。  
下記の事項について、それぞれ該当する番号を1つだけ選択、または数字や文字を入力してください。もし回答したくない問がありましたら、「無回答」または「その他・無回答」を選択、または「99」と記入してください。

Q7. あなたの性別

1. 男性  
 2. 女性  
 3. その他  
 4. 無回答

9 / 30ページ

Q8. あなたの年齢(2019年4月1日時点)

歳(数値を記入)

10 / 30ページ

Q9. あなたが学部を卒業した年

西暦  年  月卒業(数値を記入)

11 / 30ページ

Q10. あなたが卒業した大学学部・短期大学等の番号を下記からお選びください。

1. 文学部  
 2. 農学部  
 3. 通信教育部  
工学部

- 4.
- 5. 玉川学園女子短期大学芸術学部
- 6. 経営学部
- 7. 教育学部
- 8. 芸術学部
- 9. リベラルアーツ学部
- 10. 観光学部
- 11. その他・無回答

12/30ページ

Q11. あなたが学部時代に専攻した学問分野について、最も近いものの番号を下記からお選びください。

- |                                  |                                     |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="radio"/> 1. 文学      | <input type="radio"/> 21. 電気電子工学    |
| <input type="radio"/> 2. 言語学     | <input type="radio"/> 22. 土木工学      |
| <input type="radio"/> 3. 哲学      | <input type="radio"/> 23. 建築学       |
| <input type="radio"/> 4. 史学      | <input type="radio"/> 24. 材料工学      |
| <input type="radio"/> 5. 地理学     | <input type="radio"/> 25. プロセス・化学工学 |
| <input type="radio"/> 6. 文化人類学   | <input type="radio"/> 26. 子ども環境学    |
| <input type="radio"/> 7. 社会学     | <input type="radio"/> 27. 総合工学      |
| <input type="radio"/> 8. 心理学     | <input type="radio"/> 28. 情報学基礎     |
| <input type="radio"/> 9. 環境解析学   | <input type="radio"/> 29. 計算基盤      |
| <input type="radio"/> 10. 環境保全学  | <input type="radio"/> 30. 人間情報学     |
| <input type="radio"/> 11. 環境創成学  | <input type="radio"/> 31. 情報フロンティア  |
| <input type="radio"/> 12. 生物科学   | <input type="radio"/> 32. 経営学       |
| <input type="radio"/> 13. 基礎生物学  | <input type="radio"/> 33. 経済学       |
| <input type="radio"/> 14. 生物環境農学 | <input type="radio"/> 34. 教育学       |
| <input type="radio"/> 15. 農芸化学   | <input type="radio"/> 35. 芸術学       |
| <input type="radio"/> 16. 社会経済農学 | <input type="radio"/> 36. デザイン学     |
| <input type="radio"/> 17. 農業工学   | <input type="radio"/> 37. 観光学       |
| <input type="radio"/> 18. 動物生命科学 | <input type="radio"/> 38. 生活科学      |
| <input type="radio"/> 19. 境界農学   | <input type="radio"/> 39. その他       |
| <input type="radio"/> 20. 機械工学   | <input type="radio"/> 40. 無回答       |

13/30ページ

Q12. あなたの現在の雇用形態

- 1. 正規雇用(期間や任期の定めのない雇用)
- 2. 正規雇用(期間や任期の定めのある雇用)
- 3. 非正規雇用(パート・アルバイトなど)
- 4. 自営・個人事業
- 5. 専業主婦・専業主夫
- 6. 無職
- 7. その他・無回答

14/30ページ

Q13. 現在所属する業種について

- |                                |                                       |
|--------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="radio"/> 1. 農業・林業 | <input type="radio"/> 12. IT・ソフトウェア開発 |
| <input type="radio"/> 2. 漁業    | <input type="radio"/> 13. 運輸・鉄道・航空    |

- |  |                                   |
|--|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 3. 鉱業・採石業・砂利採取業    | <input type="radio"/> 14. 住宅・不動産  |
| <input type="radio"/> 4. 電気・ガス・熱供給・水道    | <input type="radio"/> 15. 外食      |
| <input type="radio"/> 5. 建設              | <input type="radio"/> 16. ホテル・旅館  |
| <input type="radio"/> 6. 製造業             | <input type="radio"/> 17. 旅行      |
| <input type="radio"/> 7. 商社・卸売業          | <input type="radio"/> 18. 医療・福祉関連 |
| <input type="radio"/> 8. 小売業             | <input type="radio"/> 19. 人材サービス  |
| <input type="radio"/> 9. 金融              | <input type="radio"/> 20. 教育関連    |
| <input type="radio"/> 10. 広告・出版・新聞・放送    | <input type="radio"/> 21. その他・無回答 |
| <input type="radio"/> 11. 通信・インターネットサービス |                                   |

15 / 30ページ

Q14. 現在の職種について

- 1. 専門・技術  
\* 医師、教員(大学・小中高校)、法律家、看護師、栄養士、保育士、エンジニア、デザイナー、俳優、職業スポーツ家、習い事の先生、インストラクター、宗教家、著述家、司書など
- 2. 管理  
\* 会社・官庁・団体の役員、課長以上の管理職、議員など
- 3. 事務  
\* 事務系会社員・公務員、事務機器操作員(オペレーター)、集金人など
- 4. 営業・販売  
\* 小売店主、卸売店主、販売店員、営業社員、セールス、外交員、商品の仕入れ人など
- 5. サービス  
\* 飲食店店主・店員、理美容師、ホームヘルパー、家政師、調理師、ウェ이터、客室乗務員、旅館・ホテルの案内人、パチンコ店の店員、クリーニング職など
- 6. 生産技能・作業  
\* 工員、職人、大工、土木作業員、清掃員、倉庫労働者など
- 7. 保安  
\* 警察官・消防士・自衛官、守衛など
- 8. その他・無回答

16 / 30ページ

Q15. Q14で「1. 専門・技術」を選択された方で、教員や司書、学芸員など教育関係の職に就いている方は、その具体的な職種について、最も深く関わっている職種の番号をお選びください。それらの職に就いていない方は、「12. 上記以外の職業」をお選びください。

- 1. 学校の教員
- 2. 中学校の教員
- 3. 高校の教員
- 4. 幼稚園教諭
- 5. 専門学校の教員
- 6. 大学短大の教員
- 7. 保育園の専門職員(保育士等)
- 8. 図書館の専門職員(司書等)
- 9. 博物館や美術館、ギャラリー等の職員(学芸員等)
- 10. 社会教育や青少年関係の指導員等
- 11. スポーツ関係の指導員等
- 12. 上記以外の職業
- 13. その他・無回答

17/30ページ

Q16. 卒業後現在に至るまでの転職経験

回(数値を記入)

18/30ページ

Q17. 卒業後現在に至るまでの勤務年数(通算)

約  年(数値を記入)

19/30ページ

Q18. あなたは、どのような入試制度で入学しましたか。

- 1. 一般入学試験
- 2. AO型入学審査
- 3. 推薦入学試験
- 4. その他
- 5. 無回答

20/30ページ

Q19. あなたの現在の家族形態

- 1. 一人暮らし
- 2. パートナーと同居している
- 3. パートナー以外の人(親や兄弟・姉妹を含む)と同居している
- 4. パートナー・子どもと同居している
- 5. その他(三世同居や四世同居を含む)
- 6. 無回答

21/30ページ

Q20. あなたの出身都道府県・出身国

※回答は任意

都道府県

出身国

22/30ページ

Q21. 現在の年収(現在の職業に基づく収入に雑収入等を加えた回答者個人の年収)

- 100万円以下
- 100万円～300万円
- 300万円～500万円
- 500万円～800万円

- 800万円～1200万円
- 1200万円～1800万円
- 1800万円以上
- 無回答

23 / 30ページ

Q22. 玉川大学は第一志望の大学か否か

- 1. 第一志望だった
- 2. 第一志望ではなかったが気に入っていた
- 3. 第一志望ではなく止むを得ず入学した
- 4. 編入学で入った
- 5. その他・無回答

24 / 30ページ

Q23. 玉川大学に入学した理由のうち、上位3つの理由の番号を順にお選びください。

	第1位	第2位	第3位
1) 知名度の高さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 全人教育という理念	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) 自分の学力(成績)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) 卒業生や先輩が魅力的	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) 立地の良さ・通学の利便性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) 附属学校からの進学	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7) 教育体制の良さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8) 就職率のよさ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9) 就職活動のサポート体制のよさ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10) 自分の目指している進路に合致	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11) 雰囲気やイメージの良さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12) 校舎や設備の良さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13) 身近な人に強く勧められた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14) 家族や知り合いが通学している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15) なんとなく	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16) 他の志望校を落ちたから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17) しかたなく	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18) その他・無回答	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

25 / 30ページ

Q24. 大学在籍時の通学形態

- 1. 実家から通学
- 2. 借家から通学
- 3. 親戚の家から通学
- 4. その他・無回答

26 / 30ページ

Q25. 通学時に利用した主な鉄道会社(通学時に最も長く乗車していた路線)

- 1. 小田急線
- 2. 東急田園都市線
- 3. 京王線
- 4. JR横浜線
- 5. JR南武線
- 6. JR中央線
- 7. 相鉄線
- 8. その他・無回答

27 / 30ページ

Q26. 本学の教育活動や学生生活のあり方に関して、ご意見やご要望などをご自由にお書きください。

※回答は任意

28 / 30ページ

Q27. 現行のTAMAGAWA VISION 2020においては、「子どもの学習力の向上」や「教授主義から修得主義への転換」「国際教育・交流の充実と英語力の強化」あるいは「教員の教育力の向上」などが目標として掲げられていますが、2029年までを展望した次のVISION策定に当たって、目標として掲げることが望ましいと考える事項やアイデアがあれば、下記にご記入ください。

※回答は任意

29 / 30ページ

Q28. 本学のブランド力向上に向けて取り組むべき課題やアイデアがあれば、下記にご記入ください。

※回答は任意

30 / 30ページ

Q29. 調査にご協力いただいた方の中から抽選で景品を用意しています。ご希望の方は、A、BまたはCのいずれかをお選びいただき、下欄にメールアドレスをご記入ください。抽選の結果については、メール返信による景品の発送をもってかえさせていただきます。

- A. 10000円分のAmazonギフト券(抽選で10名様)
- B. 5000円分のAmazonギフト券(抽選で20名様)
- C. 2000円分のAmazonギフト券(抽選で50名様)
- 希望しない

Q30. メールアドレスをご記入ください

確認のためもう一度ご記入ください

調査は以上です。長時間にわたりご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。



玉川大学での学びの空間、ラーニング・commonsは利用開始から5年目を迎えました。多くの学生が自ら学びをつくり、新たなステージへと進みました。次はあなたの番です。施設・設備をフルに活用して、あなた独自の学びを深めていきましょう。本号では、あなたの大学生活を豊かにする、各サポート・デスクを利用した学びの情報を紹介します。

### サポート・デスク(IT支援) 3階

大学では、授業で出された課題の確認やレポートの提出、各学期の履修科目の登録、掲示板での情報の確認にいたるまでICTの活用は欠かせません。

パソコン操作の方法がわからない、ソフトウェアの使い方がわからない、パソコンの起動が遅い・調子が悪い、そんなことはありませんか。ラーニング・commons3階の「サポート・デスク (IT支援)」では、皆さんのICT活用をがっちりバックアップします。専門スタッフが常駐しており、皆さんの疑問、質問をどんどん解決します。ぜひ気軽に尋ねてください。またICTスキル向上のための講習会も下記のように開催しています。

問い合わせメールアドレス： [support@tamagawa.ac.jp](mailto:support@tamagawa.ac.jp)

#### サポート・デスク(IT支援)講習会等について

**PC初期セットアップサポート** (2019年度新入生対象) 所要時間は1時間程度

4/3(水)・4(木)・5(金)・8(月)・9(火)・10(水) 各日 9:00、10:00、11:00、13:00、14:00、15:00 より開始

場所 教育学術情報図書館 ラーニング・commons3階 サポート・デスク (IT支援)

**PC講習会 ネットワーク・プリンタ接続設定他** (2019年度新入生対象)

4/8(月)・9(火)・10(水)・11(木)・12(金)・15(月)・16(火)・17(水)・18(木)・19(金) 17:00~18:50

場所 教育学術情報図書館 ラーニング・commons3階 Workshop Room 301・302

**Microsoft® Office 基本操作講習会** (全学年対象) Word / Excel 初級 Excel 上級

5~6月に開催の予定 開催日時・教室等の詳細は、後日お知らせします。

### サポート・デスク(アカデミック・スキルの学修支援) 4階



大学での学修を支援します。レポートや論文などの文章の執筆や発表(プレゼンテーション)、数学等の基本的な能力「アカデミック・スキルズ」を育むことが、大学での学修をより良くしていくためには欠かせません。これらについて、高校までの勉強によって苦手意識を持っていたりしませんか。また、これまでに経験をしていないことから、どのように取り組めばよいのか不安を覚えていたりしませんか。

サポート・デスク(アカデミック・スキルの学修支援)では、大学生活に必要なこれらのスキルを、学生の皆さんがより良く修得できるように支援をします。例えば、「(授業時の)課題に取り組む方法が分からない」

「レポートを書いたけれども、課題と合っているのかな」「問題意識を伝えるプレゼンをしたい」「授業では分かった計算式が立てられない」といった不安やちょっとした学びのつまずきに教員が応じます。1対1の個別でも、グループでも相談・支援をおこないます。

レポート・論文やプレゼンテーション、発表資料の作成の相談は、「下書き」や「構想中」などの「完成前」でも構いません。作成段階、締め切り日に応じて支援をおこないます。ただし「添削」はしないので、注意してください。開室時は原則として予約なしで支援を受けることができます。また、サポート・デスク（アカデミック・スキルの学修支援）の使い方ガイドンス、レポート・論文執筆のための講座も下記の日程で開催します。

### 2019年度サポート・デスク(アカデミック・スキルの学修支援)春学期開催の講座

基礎が学べるアカデミック・スキルズ講座「レポート・論文の作成」

- レポート・論文の構成 6/12(水)・6/27(木)
- レポート・論文を書くためのワード操作法 6/13(木)・6/28(金)
- 伝わる文章の作成法 6/14(金)・7/2(火)
- アイディアの拡張法 6/17(月)・7/1(月)
- 情報収集法 6/18(火)・7/3(水)
- 引用と剽窃(コピー) 6/19(水)・7/4(木)
- 参考文献表記法 6/21(金)・7/5(金) 各日 15:00より1時間程度 場所 Conference Room 337 (予定)

大学ホームページ内の「学修支援」で逐次、情報を更新していきます。

### サポート・デスク(英語学・会計学・TAの学修支援)4階

#### 英語学

授業時の英語学修に関する質問をはじめ、英語の資格試験(TOEIC®、TOEFL®、IELTS®、英検®)や大学院への進学(TOEFL-ITP®、各大学院独自の英語試験)の対策を支援しています。また各種英語の資格試験対策のための参考書、文法書、単語帳などを取り揃え、貸出し(最大2週間、2冊まで)もおこなっています。

#### 会計学

就職活動の際に有利とされる簿記検定やBATIC®(国際会計検定)の授業も完全個別指導で支援をおこなっています。昨年度はBATIC®で「アカウンティングマネージャーレベル」の素晴らしい結果を残した学生もいました。学部・学年問わず、授業時に分からなかった内容のフォローもしています。またラーニング・commons内での使用に限りませんが、簿記等の関連書籍も取り揃えています。ぜひ、利用してください。なお期末試験直前には事前予約期間を設けます。詳細は、後日ラーニング・commons内に掲示します。

#### ティーチング・アシスタント(TA)による支援

学修をサポートするのは教員に限られません。大学院生による支援もおこなっています。「こんなことは、先生に聞くほどではないけれど……」と思うようなことでも相談してください。身近な先輩が優しく対応してくれます。担当するTAによってサポートできる内容は異なりますので、担当曜日・時間、それぞれのサポート内容については、ラーニング・commons4階の入退館ゲート内の掲示板で確認してください。



### サポート・デスク開室時間

	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
月	17時以降 アカデミック・スキルズ 英語学 会計学										
火	17時以降 アカデミック・スキルズ 英語学 会計学										
水	17時以降 アカデミック・スキルズ 英語学 会計学										
木	17時以降 アカデミック・スキルズ 英語学 会計学										
金	17時以降 アカデミック・スキルズ 英語学 会計学										
土	アカデミック・スキルズ										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

#### ラーニング・commons内のルール

教育学術情報図書館ラーニング・commonsの入館には、学生証が必要です。忘れた場合、入館できません。常時携帯してください。

また、ひっきりかえしたときに、内容物がこぼれるおそれのある飲み物と、一切の食事は持ち込み禁止です。

ルールを守って、誰もが気持ちよく利用できる環境を維持しましょう。

発行日 2019年04月01日

発行 玉川大学学術情報図書館3・4階  
ラーニング・commons  
サポート・デスク

[http://www.tamaqawa.jp/university/academic\\_supports/](http://www.tamaqawa.jp/university/academic_supports/)

2019年度 春学期

# 基本が学べるアカデミック・スキルズ講座 「レポート・論文の作成」

**受講生募集**

きみの一生の宝となる  
スキルを獲得しよう

自己流のレポート・論文作成は  
イエローカード  
基本的なスキルを  
講座への参加で習得しよう

Jun	12 wed	13 thu	14 fri
17 mon	18 tue	19 wed	21 fri
27 thu	28 fri	Jul	1 mon
2 tue	3 wed	4 thu	5 fri

7つの内容を2回ずつ合計14回実施  
休みや授業時限に合わせた選択も可能  
各講座の内容や実施日時・場所、  
講座の申し込み方法等については、  
左側の案内の裏面をご覧ください。



**申し込み・問い合わせ**  
教育学術情報図書館4階  
サポート・デスク(アカデミック・スキルズの学修支援)

## 【関連資料】8. 学修支援の強化

### ③ SUPPORT DESK NEWS LETTER (2019 年度秋学期号)



ラーニング・コモンズ内での学修環境を活用して、今以上の高いスキルや知識を獲得するための情報をお届けします。

#### サポート・デスク (IT 支援) 3 階



サポート・デスク (IT 支援) では、学生が My PC を活用していく上で最低限必要な ICT 技術の習得を図るために、定期的に講習会を開催しています。春学期は以下の講習会を実施しました。

**PC セットアップサポート/講習会** 本年度新生を対象に「学内 LAN の利用方法」「初期パスワード変更」「プリンタ設定」「メール転送設定」「Office 設定」を、4 月 3 日～26 日の間に、のべ 9 回実施しました。

**Microsoft Office 基本操作講習会** 「Word」「Excel(初級編)」「Excel(上級編)」を 5 月 13 日～6 月 18 日までの間に 8 回実施しました。

サポート・デスク (IT 支援) では、ICT 活用支援の専門スタッフが皆さんの疑問を解決します。ソフトウェア (Word や Excel、PowerPoint など) の使い方、学内ネットワークの接続方法、プリントアウト時の用紙サイズの変更方法、My PC のメンテナンスなどのサポートをおこなっていますので、ぜひ積極的に活用してください。

#### My PC プリンタの再設定について

各校舎に配置している My PC プリンタの機種入れ替えをおこないました。プリンタを利用するには、ドライバをインストールして My PC に再度設定をする必要があります (旧プリンタのドライバでは印刷できません。詳細は UNITAMA の「お知らせ」内の記事を参照してください)。

メールでの問い合わせにも対応しています。サポート・デスク (IT 支援) アドレスは [support@tamagawa.ac.jp](mailto:support@tamagawa.ac.jp) です。

#### サポート・デスク (学修支援) 4 階

サポート・デスク (学修支援) では、レポート・論文の執筆にかかわる一般的なルールの解説やプレゼンテーションの方法、数学、統計学、英語、会計学の支援をおこなっています。すべての学生を対象に、個人やグループを問わず、直接的に関わる支援をします。また定期的な講座や検定・試験前の予約制による支援もおこなっています。春学期はレポート・論文の執筆時のルールに関わる講座を以下のように実施しました。

**基礎が学べるアカデミック・スキルズ講座「レポート・論文の作成」** 6 月中旬から 7 月上旬の試験期間の直前にかけて、レポート・論文の構成や執筆に不可欠な Word の操作方法、データベースの活用方法、引用・参考文献の記載方法等の 7 つの内容を 2 回ずつ、合計 14 回実施しました。参加者各位は受講前よりも実感を持った、スキルアップを図ることができました。秋学期は年末年始にかけて、春学期と同じ内容で講座をおこないます (日程は裏面参照)。また各校舎にもポスターを掲出しますので、確認してください。

外国語教育学 (英語)・会計学に関わる学修支援では授業内容のフォローや資格英語 (TOEIC®、TOEFL®、IELTS®、英検®)、日商簿記®や BATIC® (国際会計検定)、大学院進学などの対策をおこなっています。



個別指導で一人ひとりにあったサポートをしていますので、分からないことをそのままにするのではなく、積極的に利用してください。参考図書コーナーでは、基礎的な解説書や問題集だけでなく、最新の資格対策書、英語の発音についての DVD も揃えています。英語の関連図書は、2冊まで貸出（2週間以内）可能です。貸出ができない図書についてはフロア内でのみ閲覧をしてください。



また会計学は通常の授業時の支援日を減らし、検定や期末試験前に増やした対応をしています。予約制とする期間もあるので、ラーニング・コモンズ内の掲示を確認してください。通常の授業時であっても、英語と会計学の支援は曜日と時限が限定されています。以下の「サポート・デスク開室時間」を確認して支援を利用するようにしましょう。

ティーチング・アシスタント（TA）による支援として今年度の秋学期は、文学・工学・教育学研究科の大学院生が学修をサポートしてくれます。英語の学修方法や数学の授業内容のフォロー、教育実習・参観に向けての心構え等、身近な先輩が自身の経験をもとにアドバイスしてくれます。TAによって担当する曜日・時限が異なりますので、ラーニング・コモンズ内の掲示「学修支援スタッフ紹介」を確認してください。

### ○秋学期開館の講座について

基礎が学べるアカデミック・スキルズ講座「レポート・論文の作成」を以下の日程、内容でおこないます。

- ✓ レポート・論文の作成 12月18日（水）
- ✓ レポート・論文のための Word 操作法 12月20日（金）
- ✓ アイディアの拡張法 12月23日（月）
- ✓ 伝わる文章の作成法 12月25日（水）
- ✓ 情報収集法 1月8日（月）
- ✓ 引用と剽窃（コピー） 1月8日（水）
- ✓ 参考文献表記法 1月10日（金）
- ※ 春学期に実施した内容と同じです

各日 15：00～15：50 の 50 分間、場所は教育学術情報図書館 3 階の Conference Room 337（予定）  
 在学中だけでなく、卒業後にも活かせるスキルです。ぜひこの機会に習得してみませんか。

### サポート・デスク開室時間

	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
月											
火											
水											
木											
金											
土											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

教育学術情報図書館（ラーニング・コモンズ）は

学生証がないと  
**入館できません！**

学生証・ストラップは常に装着してください

**飲食禁止**

ふた付の飲み物はOK！

教育学術情報図書館 / 学生支援センター 学修支援課

発行日 2019年09月26日  
 発行 玉川大学教育学術情報図書館3-4階  
 ラーニング・コモンズ  
 サポート・デスク  
[https://www.tamagawa.jp/university/academic\\_supports/](https://www.tamagawa.jp/university/academic_supports/)

2019  
年度  
秋学期

## 基本が学べる！ アカデミック・スキルズ講座 レポート・論文の作成

レポート・ 論文の構成	12/18 水	情報収集法	01/06 月
レポート・ 論文のための Word操作法	12/20 金	引用と 剽窃(コピペ)	01/08 水
アイディアの 拡張法	12/23 月	参考文献表記法	01/10 金
伝わる文章の 作成法	12/25 水		



使えるスキルを身につけて、もう自己流とは言わせない。  
大学生活だけじゃなく、就職してからも武器になる。  
未来のライバルに差をつけるなら今。さあ、どうする？  
授業と重なっていたら、個別の相談に乗ってもらおう。  
もっと知りたい人は、教育学術情報図書館 4階にある  
サポート・デスク(学修支援)のカウンターへ急げ！

- 定員■ いずれも15名 空きがあれば当日参加OK！
- 対象■ 全学科・全学年 もちろん大学院生も！
- 時間■ 15:00～15:50
- 場所■ 教育学術情報図書館 3階 ラーニング・commons  
Conference Room 337

■申込■ 氏名・学科・学籍番号・希望日を  
教育学術情報図書館 4階 サポート・デスク(学修支援)  
または [manabi@tamagawa.ac.jp](mailto:manabi@tamagawa.ac.jp) まで



## ① UNITAMA 面談記録入力率

【関連資料①】

## UNITAMA 面談記録入力率(平成30年度—令和元年度)

データ抽出日：令和2年1月29日(水)

学部学科	令和元年度			平成30年度(参考)		
	在籍者数	入力件数	入力率	在籍者数	入力件数	入力率
文学部 国語教育学科	193	157	81.3%	132	120	90.9%
文学部 人間学科	82	26	31.7%	165	32	19.4%
文学部 英語教育学科	220	65	29.5%	237	41	17.3%
農学部 生産農学科	474	201	42.4%	310	164	52.9%
農学部 環境農学科	186	127	68.3%	122	78	63.9%
農学部 先端食農学科	208	165	79.3%	140	101	72.1%
農学部 生物資源学科	135	16	11.9%	236	104	44.1%
農学部 生物環境システム学科	89	80	89.9%	170	158	92.9%
農学部 生命化学科	116	11	9.5%	226	91	40.3%
工学部 情報通信工学科	178	46	25.8%	130	92	70.8%
工学部 機械情報システム学科	53	0	0.0%	109	19	17.4%
工学部 ソフトウェアサイエンス学科	282	94	33.3%	280	140	50.0%
工学部 マネジメントサイエンス学科	259	217	83.8%	300	243	81.0%
工学部 エンジニアリングデザイン	187	67	35.8%	189	60	31.7%
経営学部 国際経営学科	545	23	4.2%	558	0	0.0%
教育学部 教育学科	1133	264	23.3%	1146	236	20.6%
教育学部 乳幼児発達学科	343	153	44.6%	341	93	27.3%
芸術学部 パフォーマンス・アート	499	118	23.6%	488	100	20.5%
芸術学部 メディアデザイン	385	129	33.5%	387	22	5.7%
芸術学部 芸術教育学科	184	21	11.4%	198	44	22.2%
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	724	186	25.7%	715	332	46.4%
観光学部 観光学科	354	85	24.0%	324	171	52.8%
合計	6,829	2,251	33.0%	6,905	2,441	35.4%

面談入力率：入力数÷在籍者数

※平成30年度の入力率は最終入力率(3月時点)のもの

※海外留学中の文学部英語教育学科83名、観光学部観光学科102名は在籍者から除外

玉川大学APフォーラム2018

# 「学修成果の可視化

何を、何によって、  
どのように測定するか」



知識の定着、知識を能力に変えるにはアクティブ・ラーニングの活用が求められます。しかし、その学修成果を測定することは容易ではありません。一方、高次汎用能力等の測定には、学生の行動・活動等の現象の抽象化と具体化の往還が必要になります。そのために、主にルーブリックが活用される例が多くなっています。高次汎用能力等をルーブリックで評価する場合、その指標は科目レベルの指標です。しかしながら、「3つのポリシー」を考えると、大学全体で目指すべき指標であることは見落とされがちです。さらに、その他の測定の手段は多く論じられているものの、その方法についてはあまり触れていません。

そこで、本フォーラムでは、学修成果の可視化を目的とした測定の方法やその内容について考えていきます。

日時

2019年3月13日 水

13:00～16:30

先着

100名

参加費無料

会場 玉川大学 大学教育棟 2014 612教室

対象 大学・短期大学の教職員およびその関係者

主催：玉川大学

お問い合わせ：玉川大学教育学部教育学修支援課

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

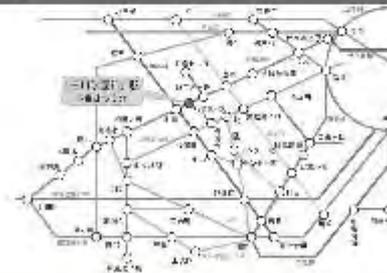
TEL: 042-739-8866 E-mail: il-supports@tamagawa.ac.jp

## プログラム

- 13:00 開会挨拶 玉川大学 学長 小原 芳明
- 13:05 基調講演 「学修成果測定の可能性と陥穽」  
早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 吉田 文
- 14:05 休憩
- 14:10 事例報告① 「玉川大学における学修成果の測定方法とこれから」  
玉川大学 教学部長 稲葉 興己
- 14:30 事例報告② 「大阪府立大学における学修成果可視化の試み」  
大阪府立大学 高等教育開発センター 准教授 畑野 快
- 14:50 事例報告③ 「高大社をつなぐ学びの可視化を探る  
—PROGから見えてきた客観的評価の可能性—」  
学校法人河合塾 教育イノベーション本部 開発研究職 成田 秀夫
- 15:10 休憩
- 15:25 パネルディスカッション  
パネリスト：早稲田大学 吉田 文 河合塾 成田 秀夫  
大阪府立大学 畑野 快 玉川大学 稲葉 興己  
進行：玉川大学 教学部事務部長 中村 好雄
- 16:25 閉会挨拶 学校法人玉川学園 高等教育担当理事 菊池 重雄
- 16:30 終了

## 会場アクセス [玉川大学 大学教育棟 2014 612教室]

- \*新宿より(約30分)  
小田急線「新百合ヶ丘」駅にて(各駅停車)(準急)に乗り換えて、  
「玉川学園前」駅下車
- \*小田原より(約60分)  
「町田」駅にて(各駅停車)(準急)に乗り換えて、  
「玉川学園前」駅下車
- 「玉川学園前」駅北口より、新宿方面へ進み、徒歩約3分



## 参加お申し込み方法・お問い合わせ先

参加をご希望の方は電子メールにて下記項目を記載の上、お申し込みください。

- ①氏名(フリガナ) ②所属 ③職名 ④職種(教員・職員・学生・その他) ⑤メールアドレス  
メールタイトルを「APフォーラム参加申込み」としてください。

送信アドレス ▶ [tamasympo@tamagawa.ac.jp](mailto:tamasympo@tamagawa.ac.jp)

※お申込みの際にお知らせいただきました個人情報は、  
フォーラムの集計およびご案内を目的とした運営のための利用以外には一切使用いたしません。

玉川大学教学部教育学修支援課

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL: 042-739-8866

E-mail: [il-supports@tamagawa.ac.jp](mailto:il-supports@tamagawa.ac.jp)



2018年度 玉川大学APシンポジウム、  
March 13, 2019 @玉川大学

# 学修成果測定の可能性と陥穽

吉田 文  
(早稲田大学)

## アウトライン

2

1. 学修成果への着目
2. アメリカでの展開
3. 日本の経緯
4. 指標のさまざま
5. 背景と課題

# 1. 学修成果への着目

## 1-1. キー・スキル

1997：『デアリング報告』の提言

- ・キースキル：コミュニケーションスキル、計算能力、ICT、学習方法の習得
- ・Progress Fileの提唱：学修成果の記録書、個人で生涯にわたって利用
- ・国家資格枠組みやQAAの整備：高等教育機関の質保証

\* 国家資格枠組みのなかで、ジェネリック・スキルとそのレベルが設定

\* 1992：高等教育の一元化

進学率の上昇、国家予算の逼迫、授業料の導入、労働市場の要請

## 1-2. 大学教育基盤 (academic infrastructure)

QAA (Quality Assurance Agency)

国家資格枠組みのコンセプト

1. PDP (Personal Development Planning)：学生の省察過程  
⇒PDR (Personal Development Records)として記録
2. 大学による成績証明書

\* PDP (PDR) は雇用の際に有用と言われているが、必ずしも十分に利用されていない。

## 1-3. 学問的知識とジェネリック・スキル

学修成果の測定の前に…

高等教育の質の判定の枠組み

- ・高等教育資格枠組 (Framework for Higher Education Qualifications)
- ・高等教育のための質規範 (UK Quality Code for Higher Education)
- ・高等教育に関する管理規範 (the relevant Code of Governance)
- ・消費者や学生の保護に関する規定

\* ジェネリック・スキルは、専門科目のなかで育成。専門科目とジェネリック・スキルの成果の同時測定。

## 2. アメリカでの展開

### 2-1. スプリングス委員会の衝撃

\* 連邦政府：大学の説明責任を強化することを目的  
背後には、連邦教育予算の上昇、高等教育予算の比重の増大。学生納付金の上昇。

2005：「高等教育の将来に対する委員会」（スプリングス委員会）

2006：『リーダーシップの試練：米国高等教育の将来像』（答申）

- ・アクレディテーション批判：インプット中心、ピア・レビュー、非公開
- ・透明性とアカウンタビリティの重要性の指摘
- ・学習成果を自己評価書の項目に付加
- ・全米レベルで学習成果を測定する標準テスト（CLA、MAPPなど）の導入を提言
- ・結果の大学間比較→予算配分での使用を提言

## 2-2. 大学団体（AAC&U）の反撃

AAC&U : Association of American Colleges and Universities)  
1815年に設立された、liberal (general) educationの振興を目的

標準テスト導入への反対

1. 評価すべき能力は専門学問の学習を通じて涵養されるもの、標準テストで測定できない。
2. 学生は、教員や学生との知的な相互作用で成長するもの、学生のテスト受験に金銭を投資しても、学生は学習するわけではない。
3. 個々の大学が教育改善に取り組むべき。

a. LEAPのもとに、b. ELO、c. VALUE、d. HIPsのプロジェクトを展開

## 2-3. プロジェクトの概要

- a. LEAP (Liberal Education and America's Promise): 2005~の大学、大学団体、州政府、産業界などとの連携による大学卒業生の質の向上を高める運動
- b. ELO (Essential Learning Outcomes): 学修成果項目の設定 (2007)

人類の文化と物理的自然的世界に関する知識

自然科学、数学、社会科学、人文科学、歴史、芸術

認知的および実践的技能

探求と分析、批判的思考力、コミュニケーション、数量的リテラシー、チームワークと問題解決

個人的および社会的責任

市民的知識および市民としての関与、認知的知識能力、倫理的思考力と倫理行動、生涯学習の基盤と技能

統合的、応用的学習

一般的な学習と専門的な学習の統合と高度な学習達成

c. VALUE (Value Assessment of Learning in Undergraduate Education) : ELOごとにルーブリックの作成、それによるアセスメント

<批判的思考力の例>

	最終基準	中間基準	ベンチマーク
問題の説明	批判的に考えるべき問題点を明確に述べ総合的に説明し、十分な理解に必要なすべての関連情報を提供できること。		批判的に考えるべき問題点を述べるが、明確にされずに説明もない。
エビデンス			
背景や仮定の影響			
学生の立場			
結論と関連する成果	結論や関連する結果は、論理的で、情報に基づく評価、エビデンスの提示能力、優先順位に従った見解などを反映している。		結論はいくつかの情報に矛盾している。関連する結果は、過度に単純化されている。

d. HIPs (High-Impact Educational Practices) : ELOを獲得するための教育・学習方法の分析

初年次経験  
 共通の知的経験  
 学習共同体  
 文章作成集中コース  
 共通課題やプロジェクト  
 学部学生の研究活動  
 ダイバーシティ・グローバルに関する学習  
 eポートフォリオ  
 サービスラーニング、地域社会を題材にした学習  
 インターンシップ  
 キャップストーン科目・プロジェクト

\* 一般教育を活性化するための工夫としてこれまで行われてきたこと。

## 2-4. ルーブリックの開発から10年

\* ルーブリックは、2,188の高等教育機関で使用

Q. ルーブリックを用いた評価得点の信頼性はあるか？

A. 検証の結果：評点の手続きがランダム。批判的思考力、文章表現力、量的分析力に関しては、標準テストの方が信頼性がある。

そこで、今後の取り組み

1. 評定者の訓練
2. 課題 (assignment) の改善
3. ルーブリックの改善

## 3. 日本の経緯

### 3-1. 学習の成果

2008：『学士課程の構築に向けて』

「学位授与の方針に関し、以上のような国際的な動向や我が国の実情を踏まえると、今後、学生による学習の成果を重視する観点から、各大学では、学位授与の方針や教育研究上の目的を明確化し、その実行と達成に向けて教育活動を展開していくことが必要」

<学士力>

1. 知識・理解、2. 汎用的技能、3. 態度・志向性、4. 統合的な学習経験と創造的思考力

## 3-2. 学修の成果

2012 : 『質的転換答申』

「従来のような知識の注入・伝達を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」

学生の学修「成果の評価にあたっては、学修時間の把握といった学修行動調査やアセスメント・テスト（学修到達度調査）、ルーブリック、学修ポートフォリオ等、どのような測定方法を用いたかを併せて明確にする」

## 3-3. アメとムチ

競争的資金による誘導

AP : 2014～、テーマ設定のもとに応募（「アクティブ・ラーニング」、「学修成果の可視化」、「卒業時における質保証の取り組みの強化」など）（cf. 2003「特色GP」）

認証評価における義務化

2011 : 認証評価制度の第2サイクル

2016 : 「認証評価制度の充実に向けて」（審議まとめ）

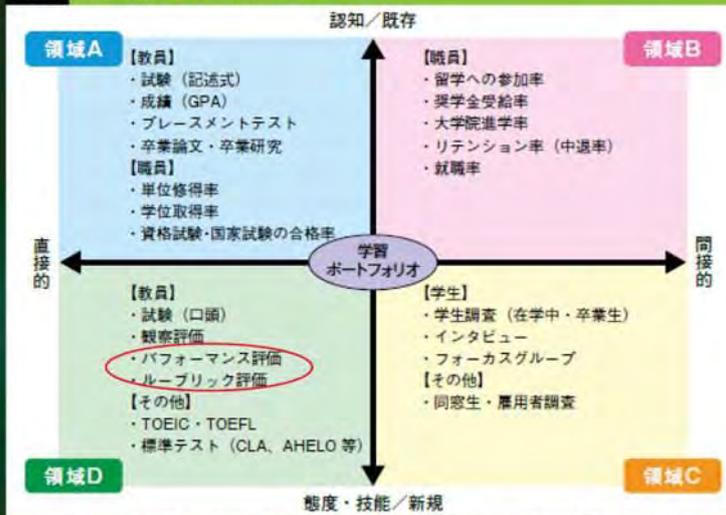
「三つのポリシーとも照らして大学が学生の学修成果をどのように把握・評価しているかという点について、評価を行うことが有効」

2018 : 認証評価制度の第3サイクル ; 内部質保証、学修成果の可視化

## 4. 学修成果指標のさまざま

15

図表1 学修成果アセスメントツールの類型



出典：山田剛史（2013）「学びと成長を促すアセスメントデザイン（第3回）」Between、8-9月号、pp.32-34

・何を（知識/態度・技能）、  
どのように（直接/間接）、  
誰が（教員、職員、学生）  
が測定するか。

・態度・技能に関心。

・パフォーマンス評価、ルーブリック評価に関心。

## 5. 背景と課題

16

### 5-1. 世界的傾向の背景

\* 学修成果への着目の背景

- ・大学進学率の上昇
  - ⇒国家予算の逼迫：アカウントビリティ
  - ⇒家計負担の上昇：投資効果
  - ⇒学生の多様化：労働者の質への要請
- ・グローバル化・市場化⇒情報の可視化が容易  
エビデンスで示す！

\* 学修成果を、態度・技能（～力）で示す！

- ⇒employabilityの要請（特定の範囲の知識は陳腐化する。  
新知識を獲得し、それを使える力が重要というイデオロギー）

## 5-2. 課題

17

- \* 成果を重視する教育：学生が学習すべきことや結果の測定が明確かつ詳細に定義され、それにもとづきカリキュラムが編成される教育モデル  
⇒慣れていない
- \* 知識 < 態度・技能  
⇒大学での学習経験にどこまで起因するのか、規定要因は何か
- \* 教育改善としての形成的評価 < アカウンタビリティとしての総括的評価  
⇒情報公開—サンクションになる
- \* 学生個人のための測定 < 機関の評価のための測定  
⇒認証評価—資源配分になる
- \* 大学教育の責任 < 学生の学習の責任  
⇒大学教育とは何か

玉川大学  
APシンポジウム 2019/3/13



## 玉川大学における学修成果の 測定方法とこれから

玉川大学 教学部長 稲葉興己

### はじめに



- 学校法人玉川学園 1929(昭和4)年設立
- 玉川大学 1949(昭和24)年設置認可(新制大学令)
- 東京都町田市玉川学園6-1-1 (61万㎡)
- 文学部・農学部・工学部・経営学部・教育学部・  
芸術学部・リベラルアーツ学部・観光学部  
8学部(7,266名、2018年5月1日現在)
- 文学研究科・農学研究科・工学研究科・教育学研究科・  
マネジメント研究科・脳科学研究科  
6研究科(133名、2018年5月1日現在)
- K-16が同一キャンパス

## Outline

1. 玉川大学におけるAPの概要
2. 学修成果の可視化に向けた取り組み
3. 学修成果の測定方法

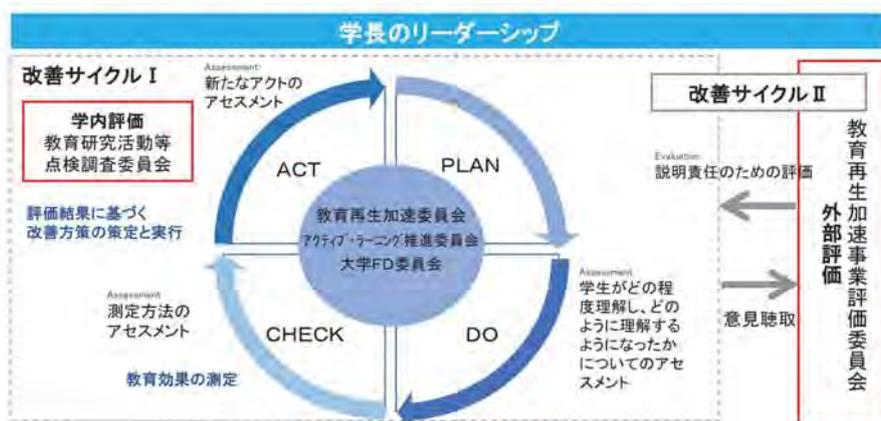
## 玉川大学におけるAPの概要

テーマⅠ・テーマⅡの複合型(平成26年度採択)

- アクティブ・ラーニングの推進と体系化
  - ▶ アクティブ・ラーニング科目の体系化
  - ▶ アクティブ・ラーニング事例集の作成
  - ▶ アクティブ・ラーニングハンドブックの刊行
  - ▶ ルーブリックの活用推進
- 教員の教育力養成
  - ▶ 全員参加型のFDプログラム
  - ▶ アクティブ・ラーニング、ルーブリック等ワークショップの開催
  - ▶ ティーチング・ポートフォリオの活用と教員評価
- 学修プロセス・成果の可視化
  - ▶ 学生ポートフォリオの活用
  - ▶ 学生調査・卒業生調査の実施

## 本事業の実施・推進体制

学長のリーダーシップのもと、教育再生加速委員会を中心に大学FD委員会と連携を図りながら事業計画の策定を行い、アクティブ・ラーニング推進委員会が事業計画を実施する。実施した内容は、教育研究活動等点検調査委員会(学内)および教育再生加速事業評価委員会(外部)において評価を行う。



▶ 5

Tamagawa University

## 平成30年度実施計画

- ① 学修支援のための専従スタッフを継続雇用
- ② アクティブ・ラーニング・ワークショップの開催
- ③ ルーブリック・ワークショップの開催
- ④ アクティブ・ラーニングに関する教員アンケート調査の実施
- ⑤ メンターによるティーチング・ポートフォリオ作成支援
- ⑥ 日本語プレースメントテストの実施
- ⑦ 担任による学修成果の確認と指導
- ⑧ FDer養成講座の開催
- ⑨ シンポジウムの開催と報告書の発行
- ⑩ 外部評価の実施

▶ 6

Tamagawa University

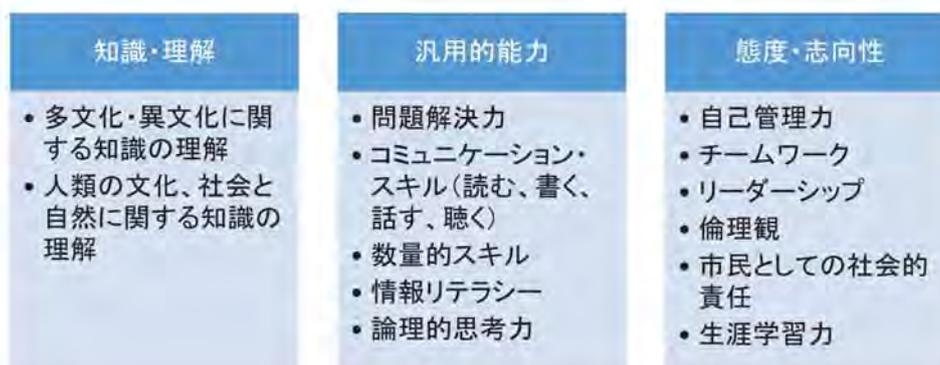
## 玉川大学における学修成果の可視化

- 授業の成績評価においては、単に知識・理解にとどまらず、汎用的技能、態度・志向性をも含めた評価を行うことを目指している。
- 本学における学修成果は、卒業時に能力到達度テスト等を実施して把握するものではなく、個々の授業を通して評価する考えに立脚している。それらの集大成としてDPが担保されると考えている。
- 個々の授業における到達目標をどれくらい達成できたのかを数値化
  - 数値化のロジックはGPAの算出方法を採用。
  - 到達目標の達成度を測定する方法は、試験、レポート、ルーブリック評価、パフォーマンス評価等で、科目担当者に一任
  - 評価基準はシラバスに明示

▶ 7

Tamagawa University

## 玉川大学が育成する能力：DPの基準



DP, CP, APとの整合性・体系性に配慮

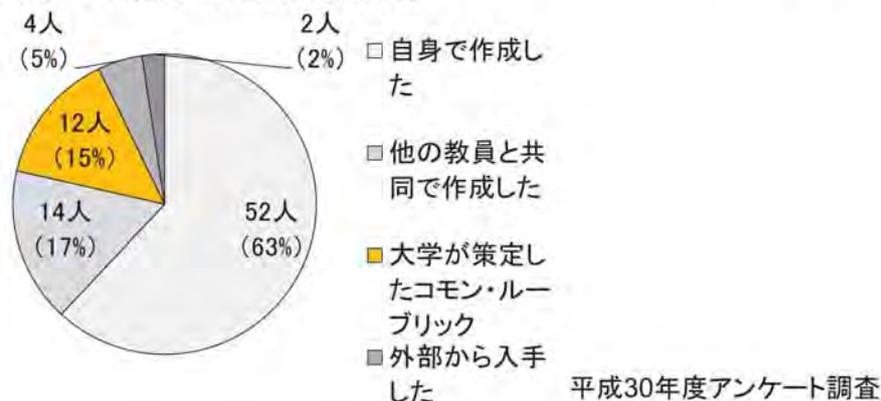
▶ 8

Tamagawa University



## コモン・ルーブリックの作成

- ▶ 平成28年度の教員調査結果において、ルーブリックの活用が進んでいないと判断。
- ▶ 平成29年度に「学士力」に関するコモン・ルーブリックを作成し、平成30年度から活用を開始。



▶ 11

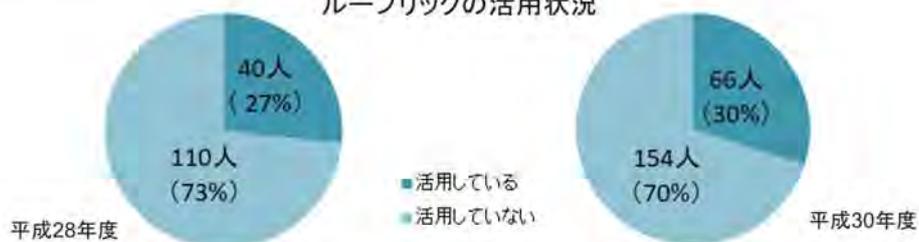
Tamagawa University

## ルーブリックの活用に関する教員調査

- ▶ 目的: 評価におけるルーブリック指標の活用実態を把握し、今後の活用の拡大に資することを目的とする。

	平成28年度	平成30年度
調査対象	1,078名(専任293、非常勤785)	762名(専任267、非常勤495)
調査期間	平成28年12月2日～22日	平成31年1月24日～2月6日
回答者数	150名(13.9%)	220名(28.9%)

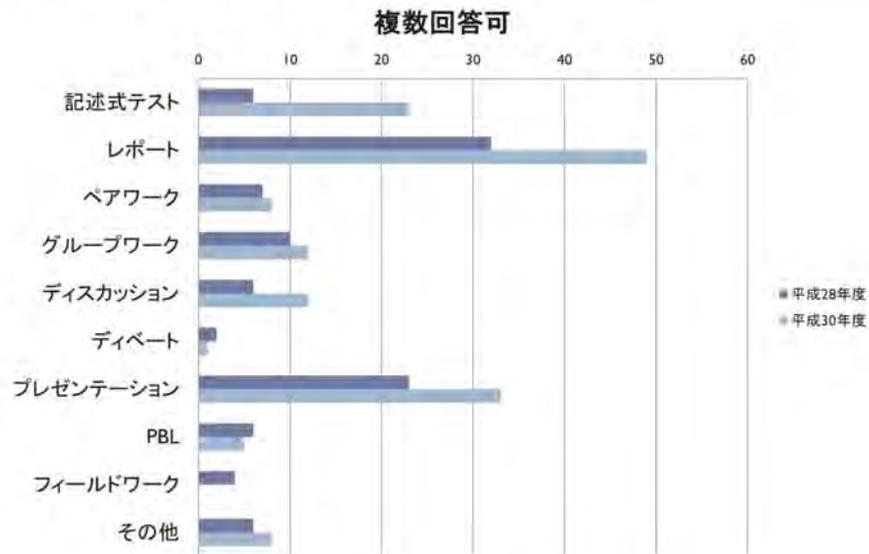
ルーブリックの活用状況



▶ 12

Tamagawa University

## どのような評価課題にルーブリックを活用しているか



▶ 13

Tamagawa University

## ルーブリックを活用している理由



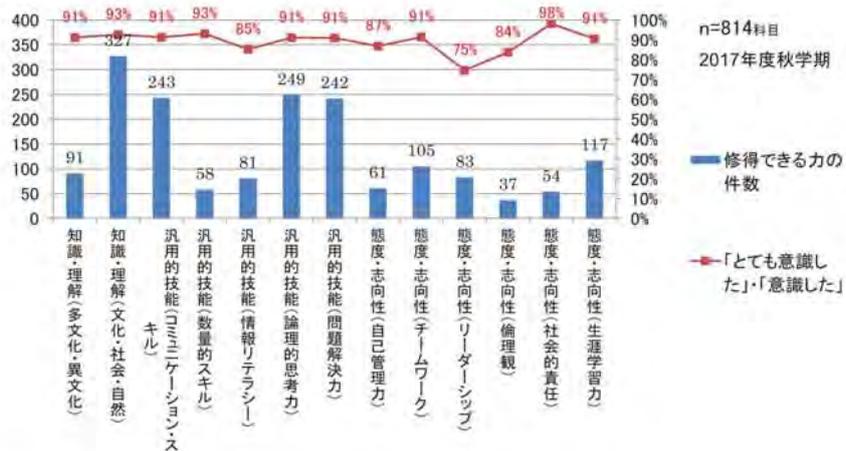
▶ 14

Tamagawa University

## 「授業を通して修得できる力」への教員の取組状況

各授業で3つを上限に設定されている「授業を通して修得できる力」について、回答科目における件数を表した。総体としては、知識理解(文化・社会・自然)、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決力に偏っている。

それらに対する取組の度合いについて、「とても意識して取り組んだ」「意識して取り組んだ」「少し意識した」「あまり意識しなかった」のうち「とても意識して取り組んだ」「意識して取り組んだ」割合を表した。ほぼ80%以上が意識して取り組んでいることがわかる。



## 学生ポートフォリオの構成

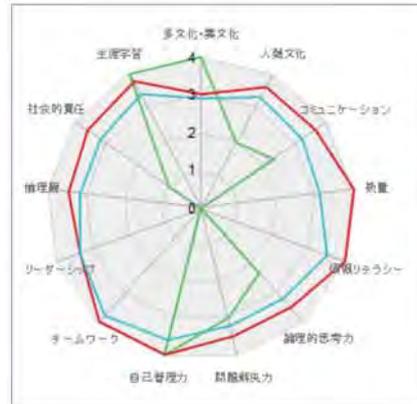
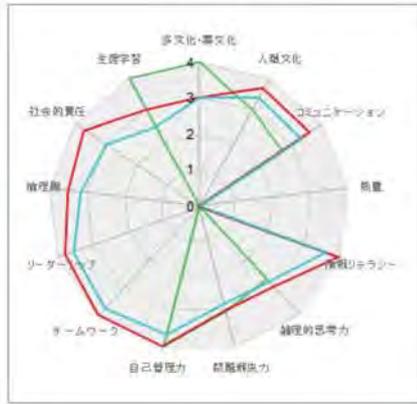
項目	内容
Student Life	(1) 目標設定と振り返り 学期の初めに、指定された項に対して自分で目標を設定し、学期末に目標を達成できたかどうかを振り返り、自己評価します。 科目の成績評価と同様に、S、A、B、C、Fの5段階評価で入力してください。
Learning	(1) 授業振り返りシート 履修登録をした全科目に対して毎回の授業が終わった後に、授業の感想、授業外学修の内容と費やした時間等を記録していきます。 科目の成績評価に加味されますので、科目担当教員の指示に従って、期日までに記入してください。
Learning	(2) 科目自己評価 学期末に履修登録をした全科目に対して自己評価をします。 科目の成績評価と同様に、S、A、B、C、Fの5段階評価で入力してください。 入力することにより、実際の成績評価と自己評価を比較することができます。
総合評価シート	それぞれの項目ごとに「総合評価シート」として、次のような図で示されます。 (1) 成績評価レーダーチャート (2) 科目自己評価レーダーチャート (3) Student Life レーダーチャート (4) GPA 経年変化折れ線グラフ 自分の記録を振り返り、以降の学修状況と学生生活に役立つように活用してください。



# 学修成果 (成績評価レーダーチャート)

1年終了時

4年終了時



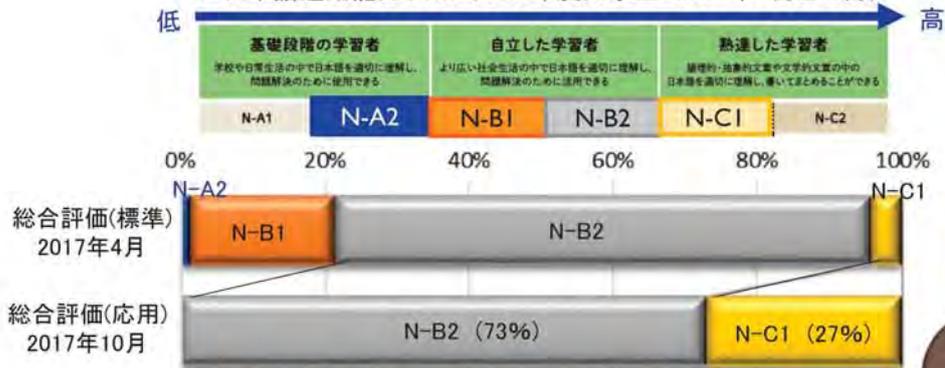
自己評価(科目) 成績評価(個人) 成績評価(全体)

▶ 19

Tamagawa University

## 国語教育学科における学修成果

● 日本語運用能力テスト(2017年度入学生 2017年4月と10月)



A2,B1が20%から0%へと減少し、C1が4%から27%へと上昇

● 文章読解・作成能力検定(2017年度入学生 2018年1月)

級	申込者	欠席者	受検者	合格者	合格率(%)
準2級	71	5	66	58	87.9

準2級：より高度な学習を目指すために、あるいは、実社会での有効なコミュニケーションを実現するために必要な文章読解力及び文章作成力

▶ 20

Tamagawa University

# 日本語運用能力テスト（応用）

2017年度入学生 2017年10月 と 2018年10月 との比較

効果量の大きさ: 記述 > 評論\_読解 > 小説\_読解  
 国語教育学科の教育課程及びその内容、方法に一定の効果

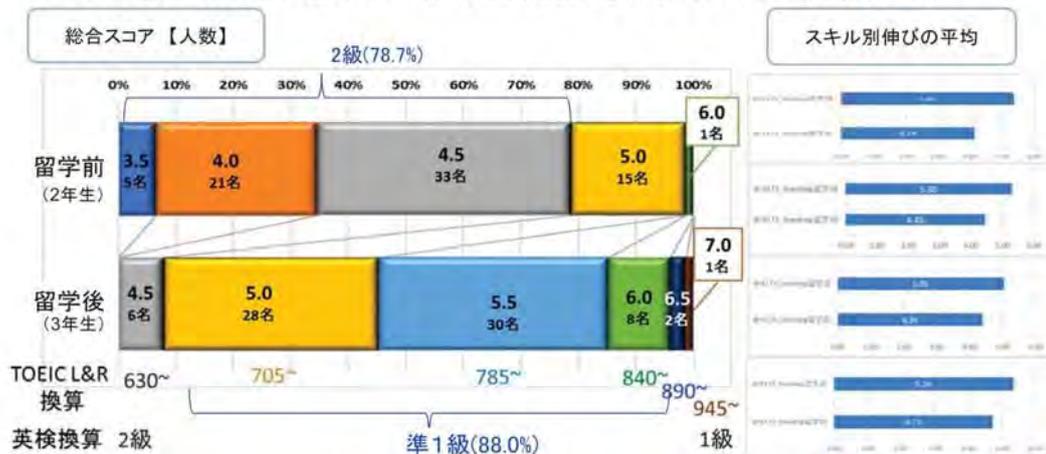


▶ 21

Tamagawa University

## 英語教育学科における学修成果 留学前後のIELTSスコアの伸び

● IELTS:読む・聞く・書く・話すという総合的な英語力を測るテスト(2015年度入学生)



- 留学後は、英検の準1級に相当する5.0～6.0が75名中66名(88.0%)
- 4技能すべての伸びが1%水準で有意
- ライティングにおける伸びが卓越

▶ 22

Tamagawa University

## 学修成果測定の実績

- ▶ 教員は授業を通して修得できる力について、ルーブリックを活用してきちんと測定(評価)しているのか。
- ▶ 検証に使用したデータ (後石原 2018)
  - ▶ 2017年度に実施されたPROGテストの測定値(469名分)
  - ▶ PROGテストを受験した、2015年度入学生の1年次から4年次春学期までの成績データ(469名分)
- ▶ 分析方法
  - ▶ PROGテストのリテラシー項目とコンピテンシー項目から「授業を通して修得できる力」のルーブリックに示されている13項目に対応する項目の抽出
  - ▶ 「授業を通して修得できる力」の成績評価とPROGテストの結果の相関係数を算出

## 成績評価とPROGテストの値との相関係数

n=469		授業を通して修得できる力													
		多文化・異文化	人類文化	コミュニケーション	数量	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習	
PROG テスト 項目	リテラシー	情報収集力	0.0547	0.0134	0.0024	0.0618	0.0421	0.0129	0.0188	0.0047	0.0671	0.0021	0.0168	0.0486	0.0263
		情報分析力	0.0260	0.0002	0.0588	0.0812	0.0291	0.0368	0.0227	0.0548	0.0244	0.0275	0.0688	0.0110	0.0100
		課題発見力	0.0654	0.0715	0.0289	0.0004	0.0055	0.0980	0.1634	0.1880	0.0023	0.0164	0.0159	0.0367	0.0533
		構想力	0.0092	0.0343	0.0221	0.0231	0.0086	0.0496	0.0246	0.0171	0.0210	0.0416	0.0136	0.0782	0.0173
	コンピテンシー	親和力	0.1200	0.0587	0.2247	0.0881	0.0261	0.0391	0.0402	0.0416	0.0942	0.0687	0.0132	0.0974	0.1046
		協働力	0.0849	0.0164	0.2631	0.0118	0.0207	0.0312	0.0300	0.0003	0.0617	0.0131	0.0248	0.0621	0.0583
		統率力	0.0631	0.0566	0.0962	0.0085	0.0002	0.0461	0.0186	0.1312	0.0326	0.0267	0.0111	0.0335	0.0231
		感情制御力	0.0845	0.0254	0.1925	0.0208	0.0416	0.0165	0.0304	0.0248	0.0157	0.0106	0.0562	0.0350	0.0186
		自信創出力	0.0511	0.0280	0.2204	0.0366	0.0072	0.0072	0.0386	0.0878	0.0567	0.0147	0.0359	0.0172	0.0844
		行動持続力	0.0976	0.0266	0.1598	0.0142	0.0100	0.0326	0.0367	0.0053	0.0188	0.0313	0.0435	0.0151	0.0963
		課題発見力	0.0379	0.0141	0.1341	0.0271	0.0201	0.0278	0.0045	0.0216	0.0530	0.0268	0.0276	0.0286	0.0144
		計画立案力	0.0508	0.0154	0.0269	0.0030	0.0331	0.0183	0.0357	0.0523	0.0142	0.0906	0.0607	0.0279	0.0059
		実践力	0.0089	0.0704	0.1294	0.0034	0.0398	0.0134	0.0716	0.1044	0.0245	0.0229	0.0124	0.0315	0.0085

黄色は授業を通して修得できる力とPROGテストが対応している項目

## 検証結果とこれから

- ▶ 「授業を通して修得できる力」の測定にルーブリックが活用されていない。
- ▶ 本学のコモン・ルーブリックの活用を目指したワークショップの開催。
- ▶ 直接評価と間接評価をどのように組み合わせて活用し、学修成果の可視化につなげていくのか、その方法を確立する。

2019.0313.APシンポジウム@玉川大学

# 大阪府立大学における学修成果 可視化の取組み

—CheckをActionにつなげるために—

大阪府立大学 高等教育開発センター  
畑野 快



## 本日の内容

- ① 重層的内部質保証システム
- ② 大阪府立大学の取組み
- ③ 本日のまとめ

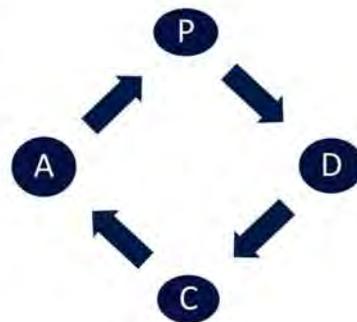


# 1. 重層的内部質保証システム



## 内部質保証システムとは

- 大学が自律的な組織として、その使命や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究、組織及び運営ならびに施設及び設備の状況について継続的に**点検・評価**し、質の保証を行うとともに、絶えず改善・向上に取り組むこと。



- 大学改革支援・学位授与機構(2017)『教育の内部質保証に関するガイドライン』より



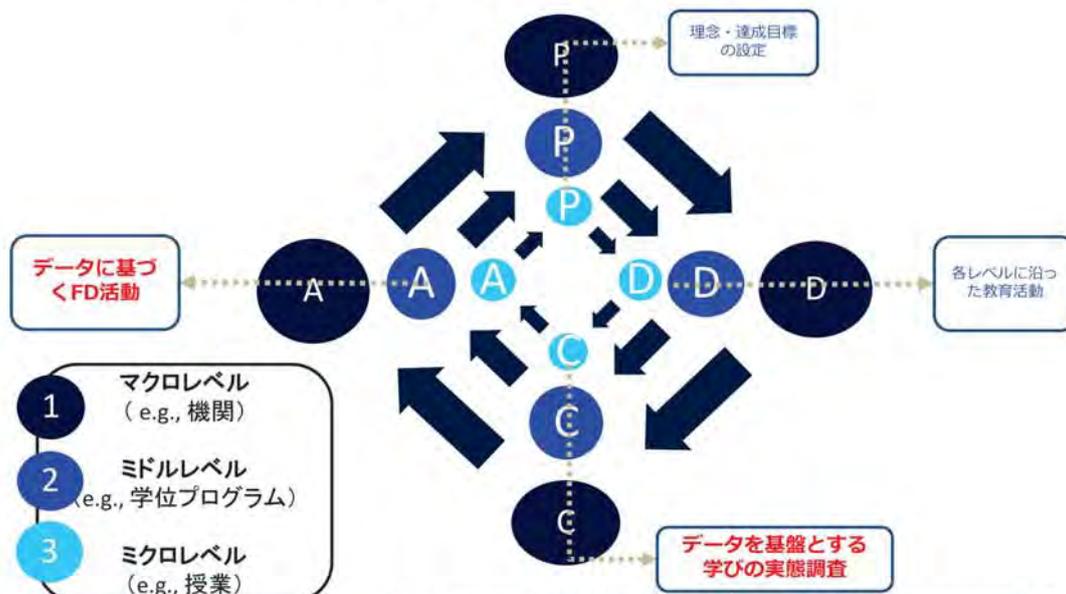
## 学位授与機構による認証評価基準の変化

第1サイクル (2005-2011)	第2サイクル (2012-2017)	第3サイクル (2018-)
1 大学の目的	1 大学の目的	1 教育研究上の基本組織
2 教育研究組織	2 教育研究組織	<b>2 内部質保証【重点評価項目】</b>
3 教員及び教育支援者	3 教員及び教育支援者	3 財務運営、管理運営及び情報の公表
4 学生の受入	4 学生の受入	4 施設及び設備並びに学生支援
5 教育内容及び方法	5 教育内容及び方法 (学士課程、大学院課程)	5 学生の受入
6 教育の成果	6 学習成果	<b>6 教育課程と学習成果</b>
7 学生支援等	7 施設・設備及び学生支援	
8 施設整備	8 教育の内部質保証システム	
9 教育の質の向上 及び改善のためのシステム	9 財務基盤及び管理運営	
10 財務	10 教育情報等の公表	
11 管理運営		

\*認証評価機関によって異なる。このページに記載の基準は、独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構のもの。



## 内部質保証システムの重層化



佐藤浩章 (2015) FDの実践的課題解決のための重層的アプローチ 大学教育学会課題研究報告書、森朋子・紺田広明 (2017) 関西大学の内部質保証システムにおける教学IRのデザイン参照



## 2. 大阪府立大学の取組み

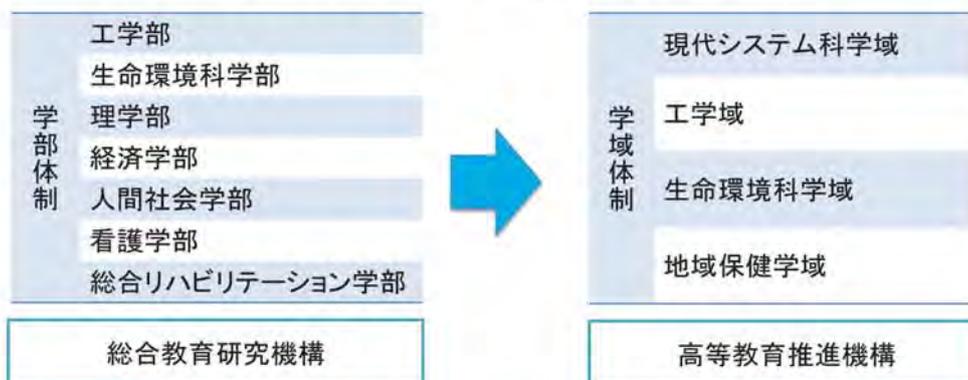


### 大阪府立大学の概要

学生数 7,724名(学士課程5,910名、大学院1,764名)

2005年 府立3大学(旧府立・女子・看護)を統合、法人化

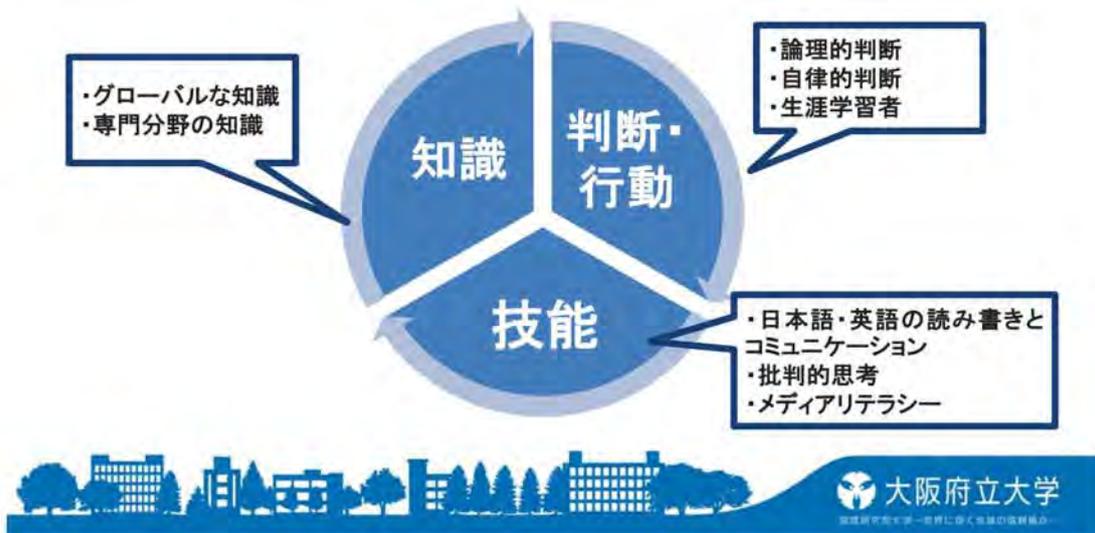
2012年 学士課程を再編、4学域13学類制に移行



## 大阪府立大学が目指す学修成果

8

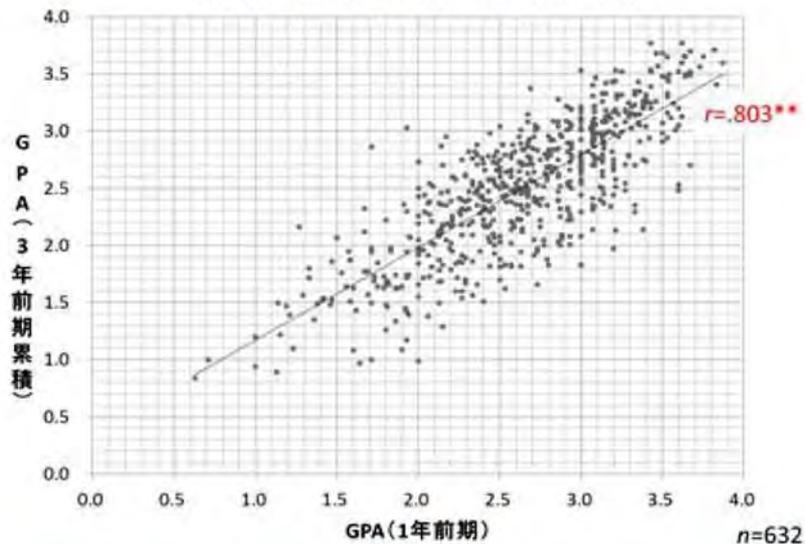
自律的な判断基準を形成し他者の意見を尊重しつつ自分の責任で判断と行動ができ、また、卒業後も生涯にわたって学び成長できる学生を養成する。



## マクロレベルにおける取組み —GPA・学生調査の活用事例—

## GPA(成績)は1年生から3年生にかけてほとんど変わらない

GPA(1年前期) × GPA(3年前期累積)



## 本学の学生調査

大学IRコンソーシアム  
の共通調査を使用

種類	対象	実施時期	実施年度	調査方法	配布・回収方法
一年生調査	B1	毎年11月頃	2009～	質問紙	授業時間内 (必修科目)
上級生調査	B3	毎年10月頃	2011～	質問紙	授業時間内
卒業予定者アンケート	B4	隔年2月頃	2008～	質問紙	研究室単位
修了予定者アンケート	M2	隔年2月頃	2008～	質問紙	研究室単位
卒業生調査	卒後5年	毎年8月頃	2014～	質問紙	郵送

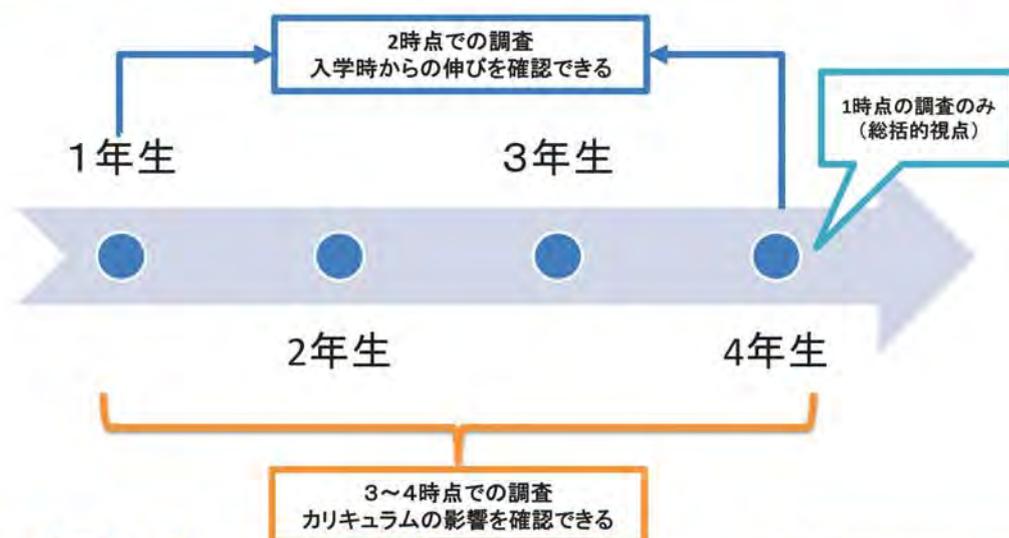


## 学生調査の回収率

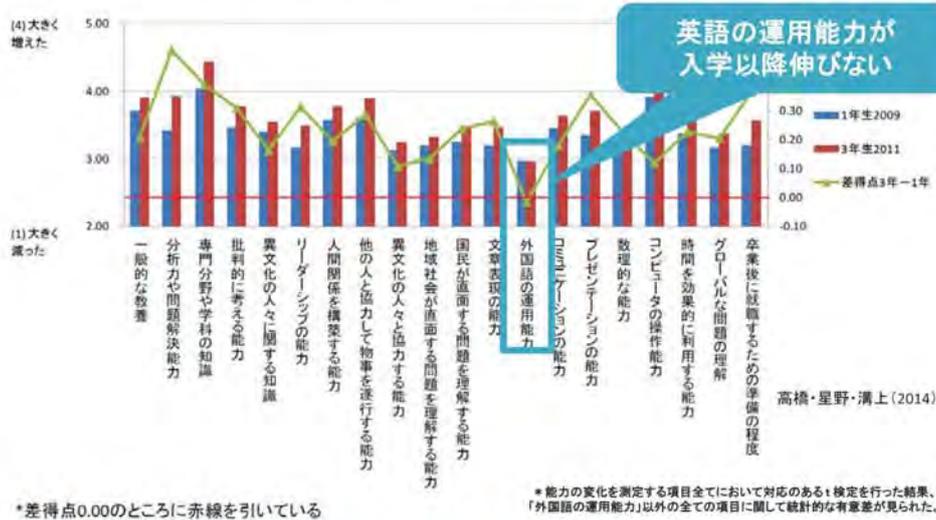
調査名	実施期間	平成26年度			平成27年度		
		対象者数	回答者数	回答率	対象者数	回答者数	回答率
一年生調査	H21年度以降毎年実施	1,332	1,178	88.4%	1,427	1,228	86.1%
上級生調査 (3年生)	H23年度以降毎年実施	1,442	1,212	84.0%	1,462	1,242	85.0%
卒業予定者 アンケート (4(6)年生)	H20・H23・H24・H26・H27年度 に実施	1,599	1,169	73.1%	1,322	1,166	88.2%
修了予定者 アンケート (博士前期 課程2年生)	H20・H23・H26・H27年度に実 施	718	526	73.3%	653	529	81.0%



## 縦断調査をどのように活用するか？



## 英語カリキュラムの見直し



## 活用してきた項目

### • 能力の伸びに関する項目(学修成果の一部)

- 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。  
(5 大きく増えた 4 増えた 3 変化なし 2 減った 1 大きく減った)

### • リテラシーに関する項目

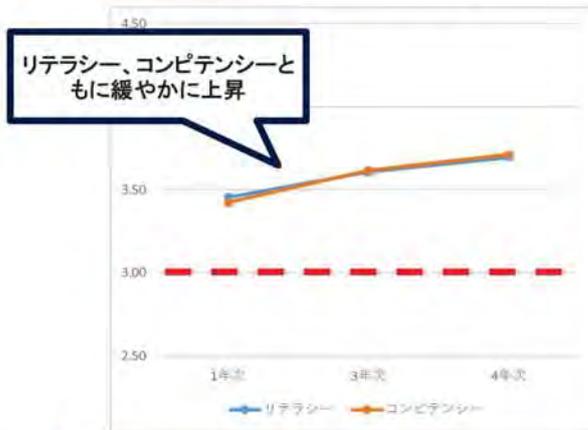
- 一般的教養 分析力や問題解決能力 専門分野の知識 批判的思考力 異文化理解 地域社会が直面する問題の理解 国民が直面する問題の理解 文章表現力 外国語運用能力 数理的能力 コンピュータの操作能力 グローバルな問題の理解

### • コンピテンシーに関する項目

- リーダーシップの能力 人間関係構築力 協力し物事を遂行する能力 異文化の人々と協力する能力 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 時間の有効利用 就職のための準備



## 1年次から4年次にかけての能力の獲得感の変化(全体)



切片、傾きの平均値と分散

	平均値	分散
切片		
リテラシー	3.42***	.13***
コンピテンシー	3.45***	.09***
傾き		
リテラシー	.10***	.01***
コンピテンシー	.08***	.01***

\*\*\* $p < .001$

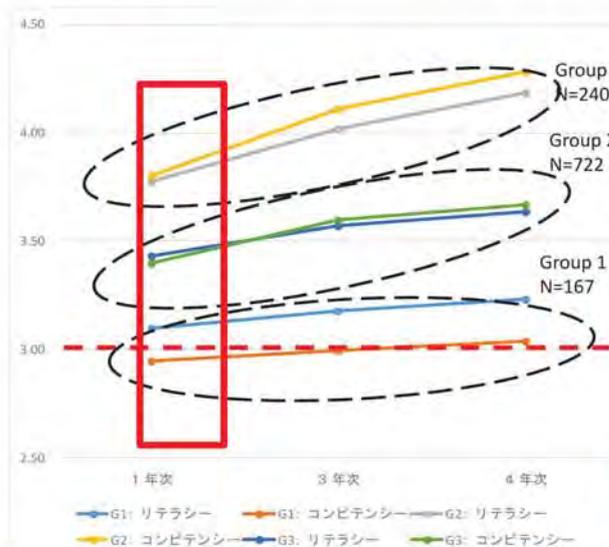
リテラシー X2(1)=.313 CFI=1.00, RMSEA=.000  
 コンピテンシー X2(1)=.754 CFI=1.00, RMSEA=.000

・全体的に1年次から4年次にかけてリテラシー・コンピテンシーが伸びていると感じている  
 ・能力の変化には個人差がある

畑野・上垣・星野・高橋(2019)



## 1年次から4年次にかけての能力の獲得感の変化(個人差)



各G groupのリテラシー、コンピテンシーの平均値(切片・傾き)

	G group1	G group2	G group3
リテラシー	3.12***	3.43***	3.75***
コンピテンシー	2.98***	3.41***	3.79***
リテラシー	.04**	.07***	.13***
コンピテンシー	.04*	.09***	.16***

\*\*\* $p < .001$

BIC = 6356.576; Entropy = 0.765

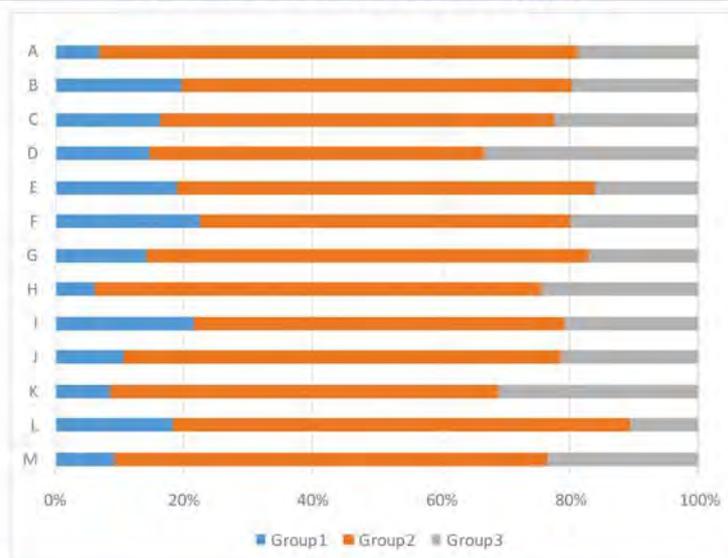
初期値の段階(1年次10月)で差がでており、その差は卒業時まで続く傾向

畑野・上垣・星野・高橋(2019)



## 学生タイプの学類ごとの割合

18



Group 1 の学生は特定の学類に多いというよりも全体的に1~2割程度いる



## 学生タイプと将来の見通しとの関連

19

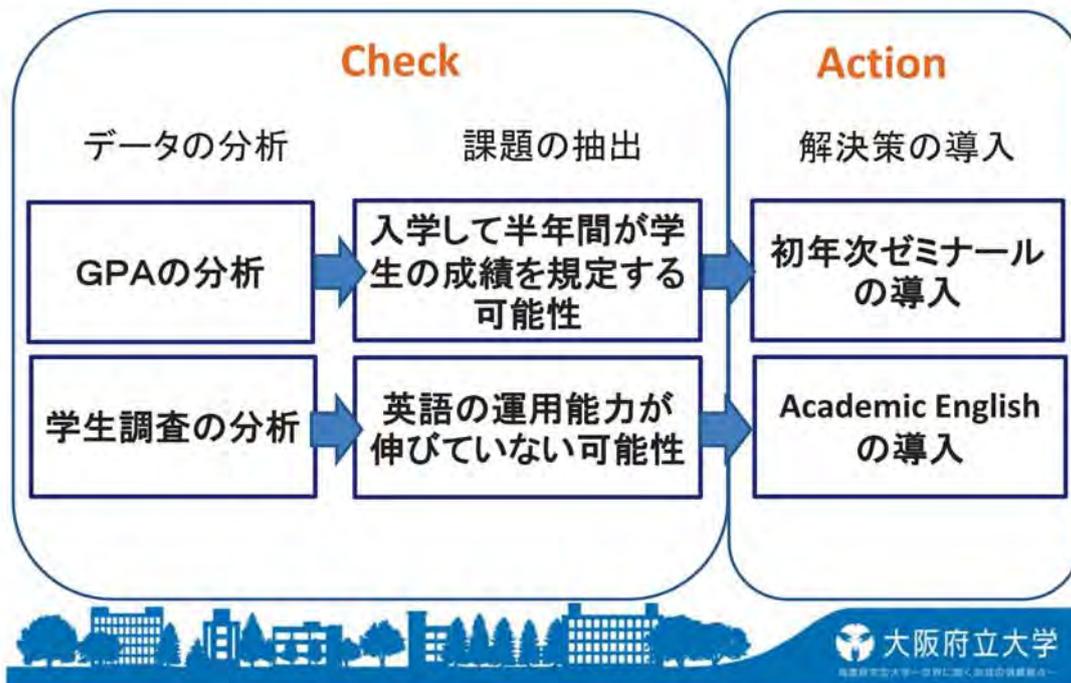


Group 1はGroup 2, 3と比べて将来の見通しがなく、理解実行ができていない傾向



## これまでのマクロレベルでの取組み

20



## ミドルレベルにおける取組み② —学生調査の活用事例—

## ミドルレベルでの取り組み

- 学生調査の活用は全てマクロレベルでの検討

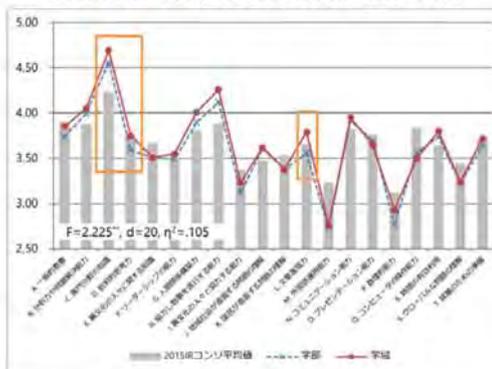
- **課題:ミドルレベルのPDCAサイクル**  
→能力に関する項目がCの機能を果たしていない

- **学類の教育目標と能力に関する項目とのすり合わせ**
  - 学類の教育目標とそれに即した学生調査の能力に関する項目 (Key Performance Indicator: **KPI**)を選定

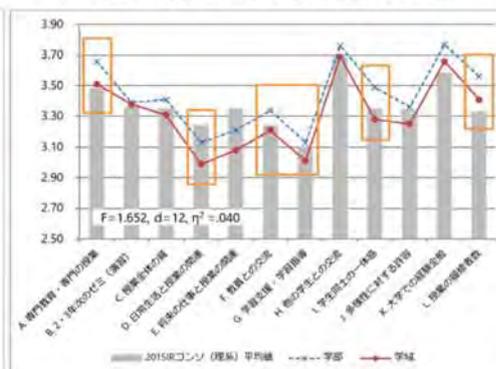


## 学部生と学域生の比較

Q.10 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。  
(5 大きく増えた 4 増えた 3 変化なし 2 減った 1 大きく減った)



Q.16 本学の教育内容・環境に、どれくらい満足していますか。  
(5 とても満足 4 満足 3 どちらでもない 2 不満 1 とても不満)



## ミドルレベルにおける取組み② —スタートアップ支援制度—



全学レベルでの可視化  
(全学レベルでのデータの分析)  
→全学共通教育に示唆

- 学位プログラムレベルでの示唆にはなりにくい
- 学生調査等の分析データはあくまで「部外者(センター)」が主体の調査
- 各部局の教員が内部質保証システムについて十分に理解していない

各部局が**主体的に**内部質保証システムの構築を推進できるように支援する必要性



## 2017年度教育戦略室の発足と取組み

### 目的(の一部)

学士課程を中心とした教育の内部質保証システムの構築

- 年間6～8回程度会議を開催
- 参加者: 副学長, 学域長, 高等教育開発センター長等
- 教育の全学基本方針(e.g., 内部質保証システムの構築)について執行部主導ではなく**ボトムアップ型**で議論を行う



## 2018年度スタートアップ支援制度

### 目的

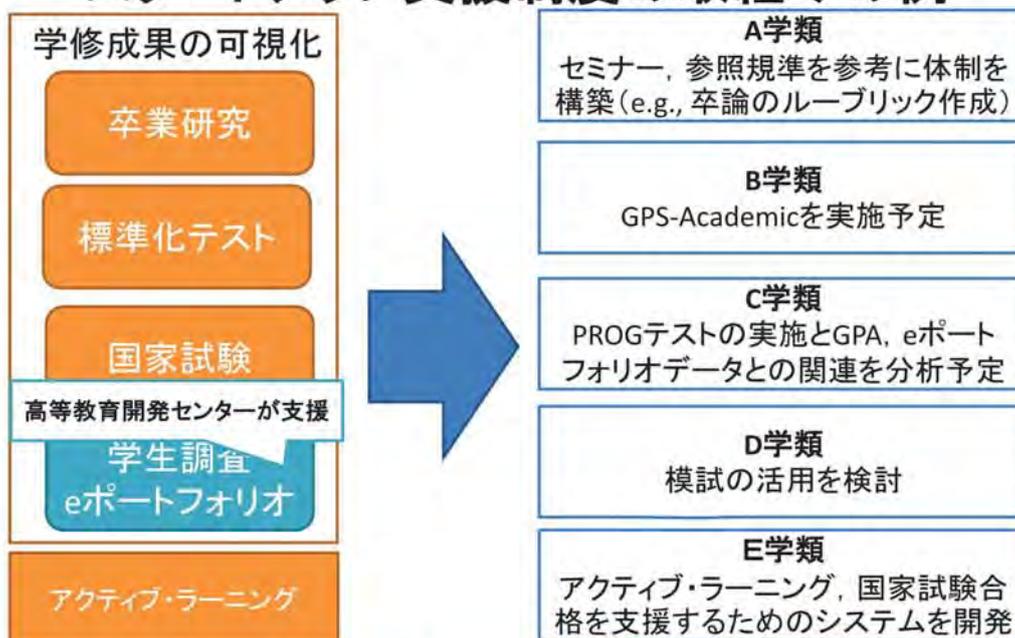
教育プログラムにおける質の保証・向上に資する部局での取組みの立ち上げに対して**経費支援**を行うこと

**Point 1** 各学類の教員が内部質保証システムについて理解を深めるための方策を支援する

**Point 2** 各学類の教員が学修成果を可視化するための方策を支援する



## スタートアップ支援制度の取組みの例



## 2018年度スタートアップ支援制度の狙い

各部局が**主体的に**内部質保証システムの構築を推進できるように支援すること

- 4年間の継続的な支援を実施予定
- 得られた成果や抽出された課題については全学の会議や教育戦略室会議等で議論していく予定
- 部局を主体とした内部質保証システムの構築を目指す



## まとめ



## CをAにつなげるためのポイント

- **マクロレベルでのC**
  - 全学共通教育・認証評価への活用
- **学位プログラムレベルでのC**
  - 部局主体で行う(そのために質保証について部局内で周知)
  - センターは補佐
- **データの活用について**
  - 報告用としてのデータと教育にとって意味のあるデータを緩やかに切り分ける
  - 間接評価(e.g., 調査)→報告用には役立つ一方、教育改善には活用しにくい
  - 直接評価(e.g., 課題とルーブリック)→教育改善活動に役立つ一方、労力がかかる→**PEPAモデルが解決策の1つ**

キーパーソンは誰か



**重要科目での埋め込み型パフォーマンス評価**  
= Pivotal Embedded Performance Assessment  
(PEPA) (Matsushita et al., 2018)

- **重要科目**
- =その授業科目の目標がプログラム全体の目標に直結する科目  
(それまでに学んだ知識やスキルを統合し、高次の能力を育成・発揮することを求める科目)
- **埋め込み型**
- =科目レベルの評価でありながら、プログラム・機関レベルの目標の達成度合いについても同時に調べるという二重の機能をもつ  
(Suskie, 2009) → 追加型 (=プログラムとは別に追加で行われる) e.g. 標準テスト





## 高大社をつなぐ学びの可視化を探る

—PROGから見えてきた客観的評価の可能性—

成田秀夫(河合塾開発研究職)



- 成田秀夫 narita@keinet.ne.jp
  - 河合塾教育研究イノベーション本部 開発研究職／現代文講師
    - 経済産業省「社会人基礎力」事務局
    - 初年次教育学会理事
    - 話す、聴く、読む、考える、書く、発表するスキルの育成
  - 大学生のジェネリックスキル測定「PROG」開発





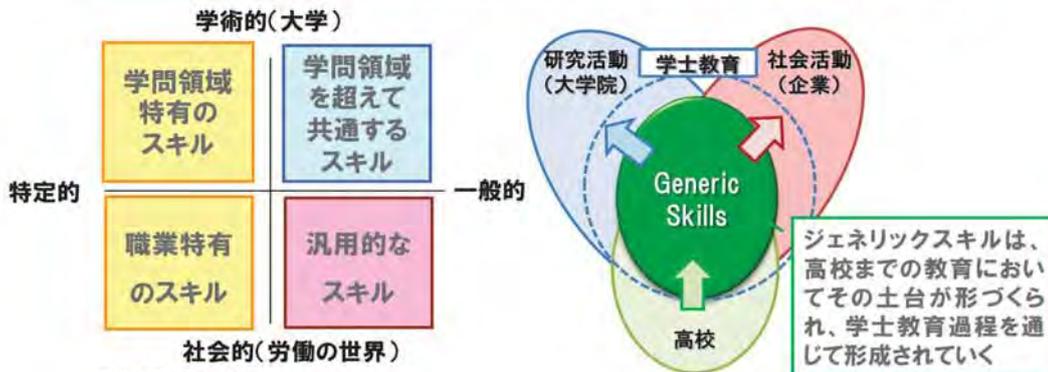
## ジェネリックスキルの求められる背景

### 生涯学習社会

- めまぐるしく変化する社会
- だれもが未知の事態への対応が迫られる
- 転職が当たり前の社会



### 学び続ける力 + どんな仕事にも移転可能な力



香川順子、吉原恵子  
「汎用的スキルに関する概念整理と育成評価方法の探索」による

3



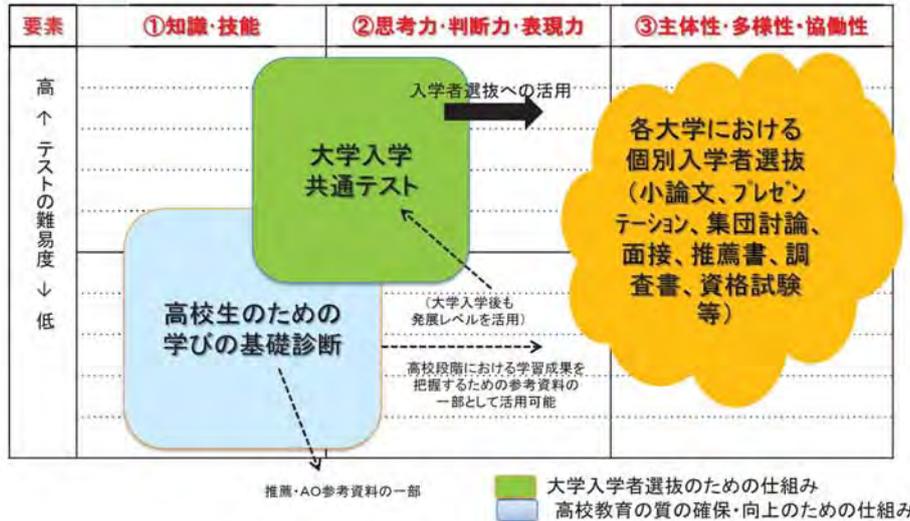
## ジェネリックスキルの2側面

PROGでは、ジェネリックスキルを「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から測定している。  
「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用や学び続ける力の素養をみるもの。  
「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるもの。



4

## 変わる大学入試 —学力の3要素に即した総合的評価—



5

## 高・大・社接続のイメージ



6

## 資質・能力の多面的評価

### ■ 3つの層で評価する

三つの層	概要	評価手段
ユニバーサル	当該社会で求められる汎用的かつ比較可能な評価（客観性）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的テスト</li> <li>・メタルブリック</li> </ul>
ローカル	当該教育機関が定めた目標に照らした評価（間主観性）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ループリック</li> <li>・調査書</li> </ul>
パーソナル	生徒・学生固有の自己評価、及び持論の評価（主観性）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオ</li> <li>・探究の成果物</li> <li>・エッセイ（持論）</li> </ul>

7

## 大学から見えてきたこと



8



## クラスター分析による学生のタイプ分類

リテラシーの言語・非言語処理を除く4要素と、コンピテンシー中分類（9要素）のスコアを基に、学生のタイプを以下の7つに分類。

タイプ名	傾向
1 オールマイティタイプ	リテラシーもコンピテンシーも軒並み高く、コンピテンシーでは特に対課題領域が高い
2 優等生タイプ	リテラシーが極めて高く、コンピテンシーも親和力を筆頭に平均的に高いが、対課題領域だけが低く、優秀だが実践に弱いタイプ
3 理屈タイプ	リテラシーが高く、論理的な思考は強いが、対人、対自己のコンピテンシーが低い
4 リーダータイプ	リテラシーは低い、コンピテンシーが軒並み突出して高い
5 社交タイプ	リテラシーは平均的だが、対課題領域以外のコンピテンシーが全般に高く、特に対人領域（親和力、協働力、統率力）が高い
6 フォロアタイプ	リテラシーが軒並み低い、コンピテンシーは、親和力、協働力が高いが、統率力はさほど高くない
7 内向きタイプ	リテラシーもコンピテンシーも軒並み低く、特にコンピテンシーの対人、対自己領域が低い

	クラスター						
	6	1	7	4	3	2	5
	1_オールマイティタイプ	2_優等生タイプ	3_理屈タイプ	4_リーダータイプ	5_社交タイプ	6_フォロアタイプ	7_内向きタイプ
N数	11,872	12,445	12,879	9,597	10,142	15,270	14,224
リテラシー-情報収集力	3.55	3.58	3.37	2.56	2.89	1.76	2.65
リテラシー-情報分析力	3.70	3.63	3.47	2.66	3.00	1.81	2.68
リテラシー-課題発見力	4.00	4.01	3.85	3.04	3.53	2.07	3.20
リテラシー-構想力	3.59	3.64	3.51	2.73	3.14	1.92	2.82
親和力	3.76	3.57	2.16	5.94	5.16	4.29	2.01
協働力	3.83	3.56	1.94	5.75	5.51	4.01	1.88
統率力	3.75	2.90	1.89	5.17	4.80	3.22	1.63
感情制御力	4.10	3.17	2.31	5.15	4.71	3.38	1.95
自信創出力	3.92	3.18	2.16	5.12	4.92	3.22	1.85
行動持続力	3.97	3.27	2.16	5.21	5.05	3.63	1.91
課題発見力	5.12	2.81	4.13	5.42	3.39	3.13	1.93
計画立案力	4.83	1.98	4.73	5.07	2.03	3.52	2.16
実践力	4.78	2.78	4.10	5.46	2.90	3.55	2.72

■クラスターボリューム

コンピテンシー&リテラシー受検者(n=86429)



※網掛けの凡例

平均+標準偏差	リテラシー：平均+0.5 コンピテンシー：平均+1	リテラシー：平均-0.5 コンピテンシー：平均+1
---------	------------------------------	------------------------------

9



## 属性別のタイプ分布(1)

■性別（コンピテンシー&リテラシー受検者/単一回答）

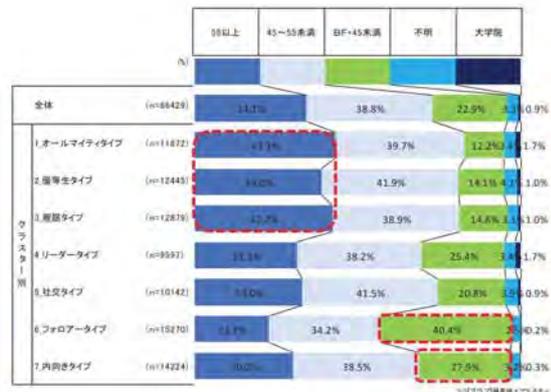
男性比率が高いのは  
リーダータイプ、オールマイティタイプ、フォロアタイプ

女性比率が高いのは  
優等生タイプ、社交タイプ、内向きタイプ。

■入学偏差値（コンピテンシー&リテラシー受検者/単一回答）

入学偏差値が高い群が多いのは  
優等生タイプ、オールマイティタイプ、理屈タイプ

偏差値が低い群が多いのは、フォロアタイプ、内向きタイプ



10



## 属性別のタイプ分布(2)

### ■学校区分 (コンピテンシー&リテラシー受検者/単一回答)

国立、公立比率が高いのは  
優等生タイプ、オールマイティタイプ、理屈タイプ

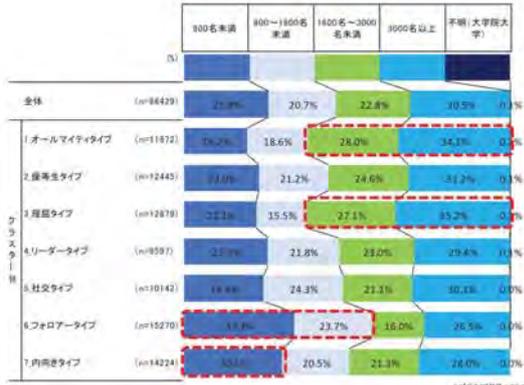
私立比率が高いのは、フォロアタイプ



### ■大学規模 (コンピテンシー&リテラシー受検者/単一回答)

フォロアタイプ、内向きタイプは、小規模校比率が高い

大規模校比率が高いのは、オールマイティタイプ、理屈タイプ



11



## 属性別のタイプ分布(3)

### ■文理 (コンピテンシー&リテラシー受検者/単一回答)

文系比率が高いのは、フォロアタイプ、社交タイプ  
理系比率が高いのは、オールマイティタイプ、理屈タイプ



### ■学科系統 (コンピテンシー&リテラシー受検者/単一回答)

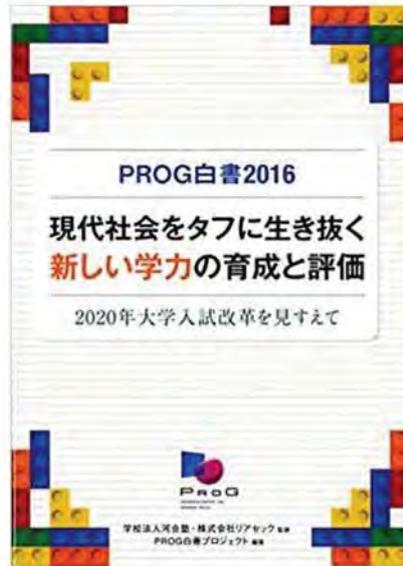
オールマイティタイプ、理屈タイプは、工学系の出現率がやや高い。  
フォロアタイプは社会科学系の出現率が高く、半数を占める。リーダータイプでも社会科学系の出現率は高め  
社交タイプは、教育系 (※教員養成、体育、保育など) の出現率がやや高い  
優等生タイプは特に突出して高い系統はないが、人文科学系と文系学科がやや高い。理系の中では保健と農学だけが高い。

★クラスター7分類 (仮)	N数	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	芸術	その他	全体
1.オールマイティタイプ	11,872	10.9%	39.1%	3.8%	27.7%	2.5%	6.3%	1.4%	4.1%	0.7%	3.5%	100.0%
2.優等生タイプ	12,445	14.1%	39.1%	3.5%	21.7%	2.3%	6.5%	2.2%	5.1%	0.9%	5.1%	100.0%
3.理屈タイプ	12,879	13.0%	38.1%	4.3%	26.7%	2.5%	5.4%	2.2%	3.2%	0.5%	4.2%	100.0%
4.リーダータイプ	9,597	10.1%	45.9%	3.9%	23.1%	1.7%	4.5%	1.2%	5.8%	0.4%	3.4%	100.0%
5.社交タイプ	10,142	13.4%	44.6%	3.2%	18.0%	2.0%	4.9%	1.9%	6.7%	1.0%	4.3%	100.0%
6.フォロアタイプ	15,270	12.7%	50.4%	3.3%	18.3%	1.0%	3.2%	1.8%	4.8%	0.5%	3.9%	100.0%
7.内向きタイプ	14,224	14.6%	40.4%	4.7%	22.0%	2.1%	4.8%	2.4%	3.9%	0.5%	4.5%	100.0%
全体	86,429	12.8%	42.6%	3.8%	22.4%	2.0%	5.0%	1.9%	4.7%	0.6%	4.2%	100.0%

※網掛けは全体より高いもの

12

## 高校から見えてきたこと



13

## 学びみらいPASSの特徴

➤ 高校生の資質・能力をバランス良く評価する客観テスト

### 学力の3要素

汎用的な能力  
=ジェネリックスキルを測定する

**PROG-H**  
(プログ)

全学年共通の“ものさし”で  
教科学力を評価するテスト

**Kei-SAT**

### 志向性

学習・生活実態における  
タイプ分類調査

**LEADS**  
(リーズ)

生徒の持つ興味・価値観から  
キャリア意識を測る

**R-CAP** for  
teens

4つのアセスメントテストによる多面的評価により  
**「学力の3要素」と「志向性」を診断**

14

## 学びみらいPASSから見えてきたこと

### 資質・能力の3つの柱の相関関係

	教科学力			リテラシー				コンピテンシー			志向性						
	平均スコア(=総合)	英語力	数学力	日本語力	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	友人関係	自尊感情	キャリア意識	興味関心
教科学力	1.00																
英語力Level	0.88	1.00															
数学力Level	0.64	0.66	1.00														
日本語力level	0.81	0.59	0.46	1.00													
リテラシー	0.57	0.46	0.42	0.56	1.00												
情報収集力	0.37	0.31	0.27	0.37	0.58	1.00											
情報分析力	0.44	0.36	0.34	0.41	0.65	0.30	1.00										
課題発見力	0.42	0.34	0.30	0.41	0.66	0.31	0.34	1.00									
構想力	0.38	0.32	0.27	0.36	0.67	0.34	0.34	0.00	1.00								
コンピテンシー	0.06	0.07	0.07	0.01	0.01	0.02	0.00	0.00	0.02	1.00							
対人基礎力	-0.03	-0.02	-0.01	-0.04	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02	0.00	0.79	1.00						
対自己基礎力	0.04	0.05	0.05	0.00	-0.02	0.00	-0.01	-0.02	-0.02	0.77	0.57	1.00					
対課題基礎力	0.17	0.17	0.15	0.12	0.07	0.04	0.07	0.05	0.07	0.48	0.17	0.22	1.00				
志向性	-0.10	-0.06	-0.05	-0.12	-0.06	-0.06	-0.07	-0.06	-0.02	0.40	0.49	0.29	0.02	1.00			
友人関係	0.11	0.11	0.11	0.06	0.05	0.02	0.04	0.03	0.03	0.44	0.31	0.53	0.15	0.26	1.00		
自尊感情	0.21	0.22	0.18	0.16	0.12	0.08	0.08	0.10	0.10	0.32	0.19	0.23	0.32	0.07	0.16	1.00	
キャリア意識	0.13	0.07	0.14	0.10	0.08	0.08	0.08	0.06	0.06	0.02	-0.03	0.03	0.09	-0.06	0.04	0.03	1.00

相関係数表  
 0.7以上:強い相関 0.4以上、0.7未満:弱い相関  
 実線枠内=相関なし 点線枠内=弱い相関あり

■ 学力の3要素間  
 「教科学力」×「リテラシー」で、弱い相関はあるものの、各能力間で、強い相関はみられない。各能力は独立していると考えられる。

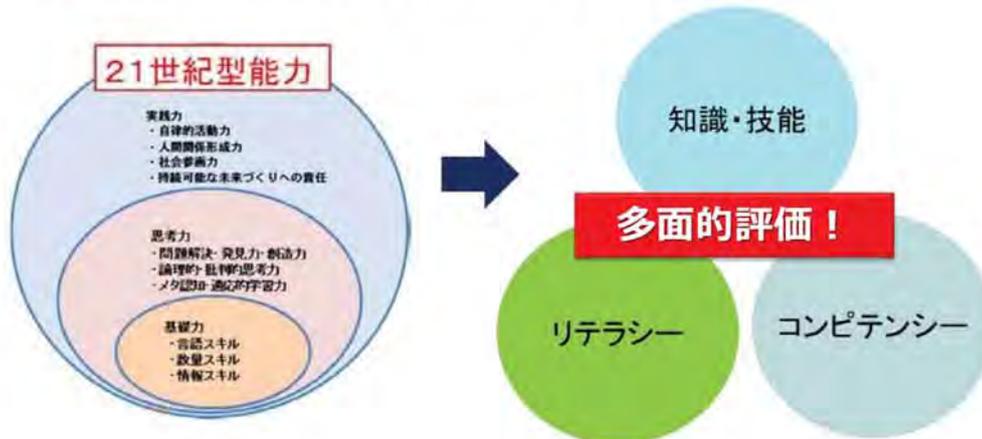
■ 学力の3要素・志向性間  
 「コンピテンシー」×「志向性」で弱い相関がある。

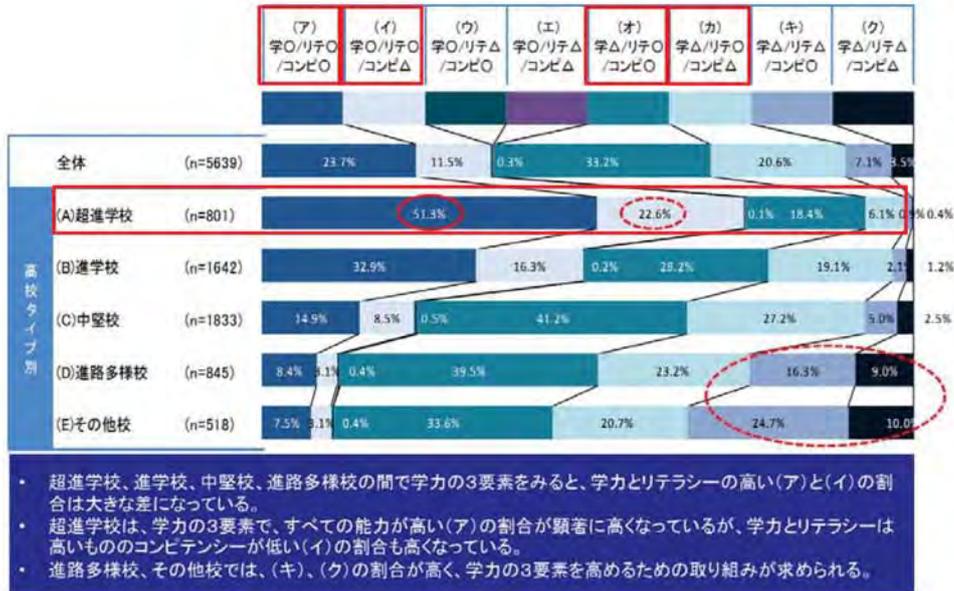
0.7以上に網掛け 0.4以上、0.7未満に網掛け

Copyright © Kawajuku Educational Institution.2018 All right reserved.

## 学びみらいPASSから見えてきたこと

### ■ 三要素のそれぞれを育成する必要がある

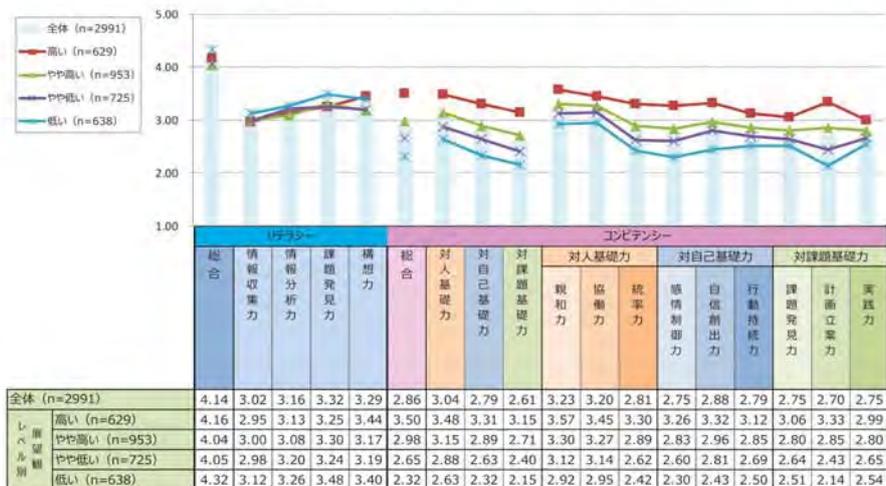




## 学びみらいPASSから見えてきたこと

### 「リテラシー」「コンピテンシー」とR-CAP「キャリア意識(展望観)」

■PROG基礎力スコア×R-CAP展望観レベル別



# 就職から見えてきたこと



# 卒業生の就職先とPROGのスコア

学生数では、19大学合計で15,165人のデータ

